

# 良導絡臨床入門

著者 中 谷 義 雄

良導絡研究所

# 良導絡臨床入門

著者 中 谷 義 雄

# 良導絡臨床入門

中 谷 義 雄 著

## 良導絡治療のための基礎概念

① 良導絡とは	1
② 良導点とは	1
③ 反応良導点とは	1
④ 反応良導点と患部	1
⑤ 疾患による反応良導点	2
⑥ 治療点	2
⑦ 治療点への刺激	2
⑧ 昭和針管	2
⑨ 電気針	3
⑩ 治療の順序	4
⑪ 通電電流量	4
⑫ 針の強さ	4
⑬ 治療部位の筋が軟かい場合	4
⑭ 痛みのある患者には	5
⑮ 冷えとしびれの患者には	5
⑯ 治療点の数	6
⑰ 刺入と痛み	6
⑱ 電気針と灸（熱刺激）	6
⑲ 肋間部への刺入	7
⑳ 針の曲った場合	7

②①	良導絡の形態を利用した治療法	7
②②	1ヶ所に刺激すると	8
②③	俞 穴	8
②④	募 穴	11
②⑤	反応良導点の治療方針	11
②⑥	刺激の強さの配合	11
②⑦	頭部へ刺激を沢山にした場合	11
②⑧	刺激の過誤	12
②⑨	刺激によって針がぬけなくなった場合	12
③⑩	刺激と入浴	12
③⑪	治療の間隔	12
③⑫	全良導絡の測定	12
③⑬	生理的範囲の求め方	12
③⑭	生理的範囲の求め方の略法	14
③⑮	測定電流量の高いのは	15
③⑯	測定電流量の低いのは	15
③⑰	良導絡，興，抑と症状	15
③⑱	良導絡の恒常性	15
③⑲	興奮点と抑制点	17
④①	針を刺す方向と興奮性	17
④②	良導絡と血液循環及びホルモンの分泌	18
④③	ホルモン分泌刺激点	18
④④	電気針と良導絡治療	19
④⑤	今後の勉強のしかた	19

## 各種疾患における反応良導点（経験的治療点）の位置

① 頭痛	21	② 癲癇	23
③ 半身不随	24	④ 色盲，色弱	26
⑤ 仮性近視	29	⑥ 結膜炎	29
⑦ 目の奥の鈍痛	30	⑧ 白内障	30
⑨ 耳鳴	31	⑩ 難聴	32
⑪ メニエル氏病	32	⑫ 嗅覚麻痺	33
⑬ アフター性口内炎	34	⑭ 舌性言語障害，味覚麻痺	35
⑮ 歯痛	35	⑯ 声帯浮腫	35
⑰ 後頭神経痛	37	⑱ 肩こり症	39
⑲ 背のこり	39	⑳ 顔面神経麻痺	40
㉑ 顔面痛と三叉神経痛	40	㉒ 顔面神経痙攣	42
㉓ バセドウ氏病	43	㉔ 気管支喘息	43
㉕ 慢性胃炎	45	㉖ 肝臓炎	45
㉗ 便秘	48	㉘ 糖尿病	48
㉙ 月経困難及び不順	50	㉚ 不妊症	52
㉛ インポテンツ	52	㉜ 膀胱炎	55
㉝ 五十肩	55	㉞ 腰痛	56
㉟ 坐骨神経痛	57	㊱ 膝関節炎	59
㊲ 夜尿症	61	㊲ 捻坐	63
㊳ 知覚神経麻痺，運動神経麻痺	63	㊳ 高血圧症	63

# 良導絡臨床入門

中谷義雄

## 良導絡治療のための基礎概念

① 良導絡とは、内臓疾患や諸種の疾患をもつ患者の皮膚通電抵抗をノイロメーターにて測定すると、特定の電気の通り易い点（反応良導点）が点々と一定の型に並ぶことが発見されます。（昭和25年発見）

この電気の通り易い一連の系統を良導絡と名づけました。

② 21 Vにて健康人の皮膚通電抵抗をしらべますと全身に碁盤の目のように約1 cm間隔で電気の通り易い点が並びます。これを良導点と名づけます。電圧をさげて12ボルトで測定しますと、この良導点は不鮮明となります。しかし健康人の電気抵抗は上半身程特に顔面は電気が通り易いので、顔面等に於ては12 Vに電圧をさけても良導点が鮮明に現われます。このようなことを一応念頭において探索を行います。

③ 健康人においては12 Vでは良導点が不鮮明となりますが病人では患部からの、反射によって良導点が鮮明に現われます。従って12 Vで、なおかつ良導点が鮮明に現われた場合、これは病的な反射によるものと考えて、この良導点を反応良導点と特に名づけて治療点に用います。この反応良導点に刺激（電気針や銀粒）を与えて治療します。

④ 反応良導点は病的に交感神経の興奮性の高くなった部位で交感神経の興奮性が高くなりますと、その部位の皮膚では電気が通り

易くなります。その部位に電気針のような刺激を加えますと、抑制し、電流量が減少します。これは、その反応良導点と患部との間の交感神経が局所的に調整されたと考えています。

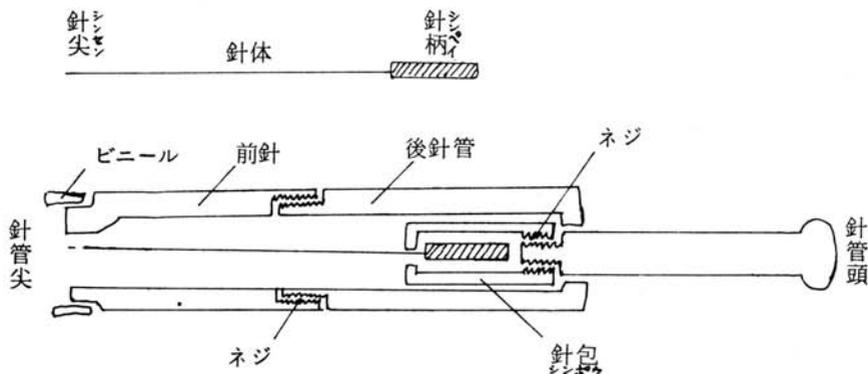
⑤ 疾患によって良導反応点が、どのあたりに現われるかは、あらかじめ知っておく必要があります。

⑥ 治療点になるのは反応良導点のみではなく筋の硬結部位や圧痛点や動脈（動脈の周囲を交感神経がとりまいて走っている）や骨から神経がでる部位等が治療点となります。

⑦ それらの治療点に電気針や銀粒の貼布刺激を行います。先づ反応良導点を求めて、そこにマジックインキ等にて印をつけ電気針刺激を行って全部終了してから、銀粒を貼ります。その順序は逆になってもかまいません。

⑧ 電気針は昭和針管（自律神経調整針）を用います。寸六（スノク）と二寸（ニスン）という二種類がありますが一般には寸六を用います。この針管を分解して、その中にステンレス或はモリブデンの針を入れます。

昭和針管（自律神経調整針管）



針管尖を反応良導点に少し強いめにあて、針管頭を術者の右示指指頭で軽く2～3回たゞき目的の深さまで刺入します。この際切皮を上手に行いますと、切皮時の痛みが軽く、ほとんど無痛に近く患者は苦痛を感じません。これを、ゆっくり切皮しますと、とても痛みを強く訴えます。5ミリ以上、場所によっては2cm程刺入しますと、なるべく筋の抵抗を感じない速さで目的の深さまで入れて、軽く雀啄（ジャクタク）即ちピストン様にぬきさしします。これは場所によって異なりますが筋の多いところでは5ミリ程、筋の中に深く入れた状態で行います。

この場合刺入する時には特に痛みを感じない様に吸いこまれるような感じで入れます。抜くときに筋が針をしめつけてくる様な感じの起るように軽く抜くのが雀啄刺激の効果をあげるコツです。

⑨ このような針刺激だけでも効果がありますが、これに電流を加えますと更に効果があがります。測定や探索と同じように握り導子を患者さんの左右何れかの手で握らせ、12Vで自律神経調整針は皆金属ですから、その何れかにノイロメーターの測定導子の金属部分を接触させます。測定導子は陰極になっていますので、反応良導点には陰極から通電されることとなります。接触させたまゞで雀啄刺激を行います。身体の軀幹部では、雀啄を5回或は7回ぐらい行います。特に患者の苦痛を訴える部位という様に重要な部位では、30回、40回、60回或は100回雀啄してもかまいません。この場合、痛みのとれるまで或は刺入した部位の筋の硬結が軟かくなることを目標とします。回数が多い程良く効くことが多いのですが全身に沢山この様な刺激を加えますと刺激過剰となります。身体がだる

いとか、発熱する人も稀にあります。特に針刺激の初めてのの方は10～20ヶ所ぐらいにとどめて、だんだん刺激場所を増やしてゆきます。

⑩ 刺激は通常上部から下部に向って治療してゆきます。下から上へ向って治療してゆきますと、のぼせることがあるからです。一つつつの上下について、それ程考える程のものではありません。

⑪ 電気針を行う場合握り導子（陽極）と測定導子（陰極）を自律神経調整針と身体によって結ばれますので回路ができて電流が流れます。12Vで通電します。この際200 $\mu$ A（マイクロアンペア）流しますが、これは私の実験によるものであって、これが150 $\mu$ Aであっても100 $\mu$ Aであっても効果があります。小児や幼児では100とか50 $\mu$ Aに電流量をさげるべきであります。これは可変抵抗（ポリューム）を調整すれば簡単にできます。一回調整すれば、どこを刺入しても大体同じぐらいの電流量が流れます。電圧を21Vにしますと一寸電流痛を感じる人がありますので、12Vをおすすめします。局所麻酔をしたり、特に痛みの強い場合等は21Vを使用することによって効果があがります。

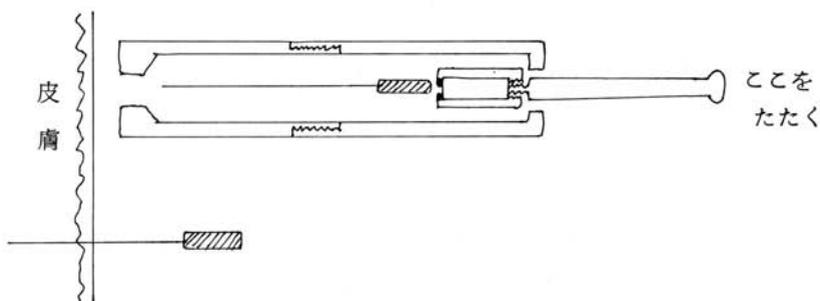
⑫ 針の深さは筋の多いところでは深く、すぐ骨といったところでは浅く、骨の上面を、こする様に皮膚に水平に刺入します。刺入の方向も直角、斜め、水平と色々のもがあります。効果のにぶい時は色々変えてみる必要があります。

⑬ 臀部のようなところで針がスカスカと入って全く抵抗のない様な場合効果が弱いことが多いものです。この様な場合、刺入した針の周囲に圧迫を加えて筋が針をしめつける様にしますと効果がで

てきます。

⑭ 痛みのある患者さんでは、その病気の痛みが特に強くなる様な状態位置で反応良導点を求めてそのまゝの位置で電気針刺激を加えますと特に効果があります。例えば五十肩の場合、手を上にあげたり後へまわしたりして行います。腰痛では、前屈、後屈、ねじてみて痛い状態にします。足の捻坐等、立ってみて足に重心をおいて痛い状態にして治療します。

⑮ 冷えやしびれ等は深く刺入して置針しておくとうまく効くことがあります。置針とは針を筋に刺入したまゝで、10分或は20分間、皮内針では数日間刺入したまゝで刺激を与える方法であります。これを簡単に行うためには、昭和針管の針をとりのぞき、一寸の針を村田銃の弾ごめの様に前の穴より入れて、前述の様に針管頭をたたきますと針は筋に刺入され、針と針管はとめてありませんので針だけは刺入されたまゝのこります。



置針の様な持続刺激は上手、下手なしに動くので技術に自信のない場合、又大量の患者さんをつかう場合等に於ては置針をすゝめます。色盲色弱等の患者さんでも、こめかみに置針しておきますと普通電気針を行った時より効果のあがることがあります。雀啄電気

針を上手に行いますと置針より効果が大きくなります。置針して最後に7秒程通電する方法もあります。

⑩ 刺激部位の数は、一般には60 Kg程度の成人では40ヶ所以内であれば、副作用のすることは、ほとんどありません。夏は3割程刺激量を少くします。簡単には7をかけ、 $40 \times 7 = 280$ ですから、28ヶ所以内とします。又体重や年齢によって刺激量を少くします。60 Kgで40ですから、30 Kgなれば20、10 Kgなれば40を6で割って、約7ヶ所となります。治療点は如何に少くても結構です。一般薬の薬量程度であり、私は500カ所に電気針を行いました。副作用がでなかった例を経験しています。刺激量が適合しますと特に効果が大きくなります。刺激は気持の良い刺激を与えねばなりません。

⑪ 健康人程痛がりません。病的な部位はあまり痛みを感じないことが多く、むしろ気持が良いと云います。知覚神経が敏感でも鈍麻していても異常です。特に痛がる場所と痛みを感じない部位がありますが、治療では特に痛みの感じぬくい部位を選ぶことが多い様です。手足の様な末梢部は知覚神経の分布が多いので痛みを強く感じるが多い。やむを得ない時は、こうした部位も治療点として用います。後述の興奮点、抑制点は、こうした四肢の末梢部にありますので、私は、この場合興奮点と抑制点には電気針刺激を与えずに銀粒を貼っています。

全身の治療点に銀粒を貼っていますが、勿論全部貼らねばならないわけではありません。

⑫ 電気針刺激は交感神経の興奮性を抑制する傾向が強く灸の様

な熱刺激は副交感神経の興奮性を高める傾向が強い様です。(これは体表の問題)。体表と内臓とは拮抗的な場合もあるし、同じように興奮したり、抑制したりしていることがあるので複雑(左右良導絡の関係から考えると理解され易い)。

電気針の様な刺激を与えると、それが交感神経に作用して、その恒常性によって、自ら調整される。従って、その恒常性の最もうまく働く刺激の強さや種類を用うべきであります。弱い刺激では陰極から通電200 $\mu$ A、7~10秒刺激が最も調整され易い強い刺激では永く雀啄刺激を加えて筋の軟かくなる程度に行うと最も効果的に調整される。

①⑨ 肋間部で深く刺入すると稀に肋間神経痛を起すことがあります。この様な場合、局所麻酔剤の注射等によって鎮痛せしめます。又肺を刺入しますと気胸を起すことがあります。これが良導絡治療で最も危険な副作用であります。又太い神経を直接刺入すると電撃痛があったり、四肢がしびれたり運動麻痺を起すことも稀にありますが、この様な場合異状の起った部位に反応良導点を求めて電気針を行いますと1回或は2~3回で快復します。

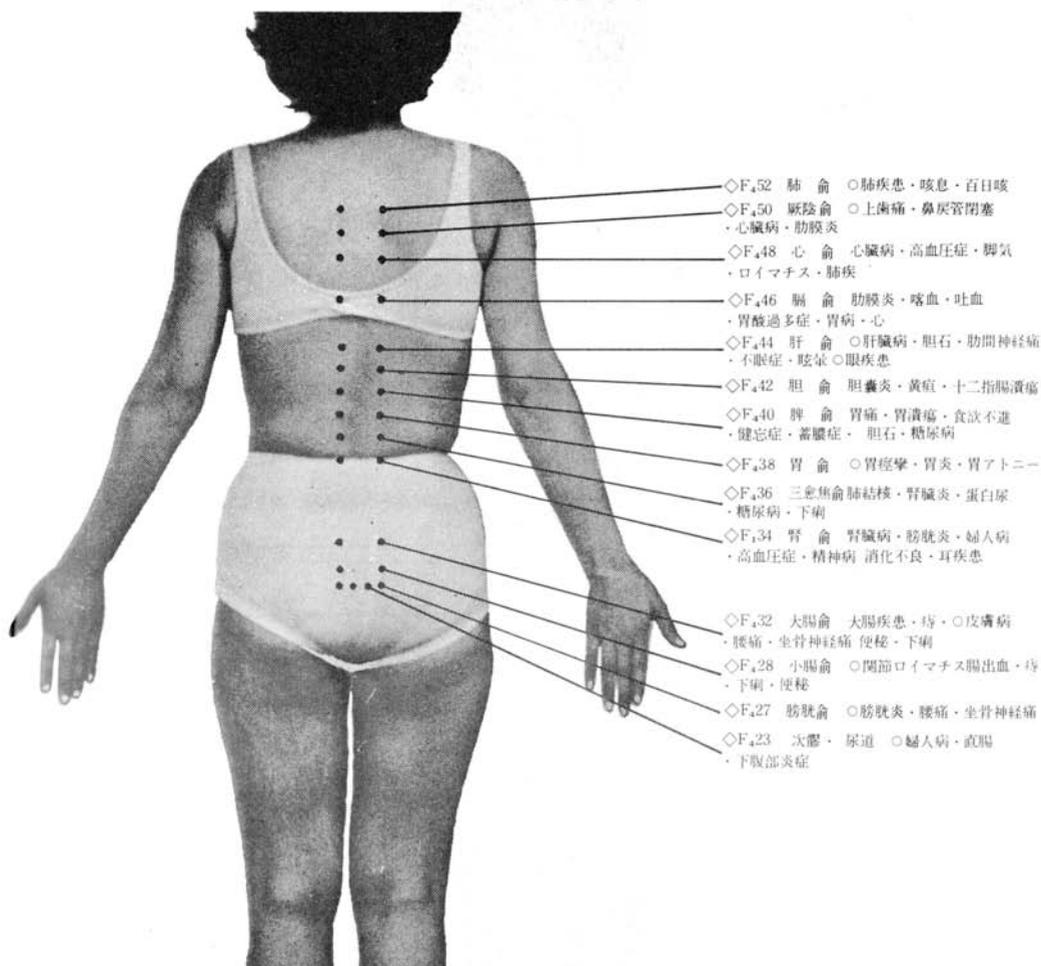
②⑩ 針の曲ったものを何回も伸して用いておりますと稀に折針することがあります。頸部や四肢背腰部等で折針した例がありますがそのまゝにしておいて全く害はありませんでした。鋭角に曲った針は伸ばさないで新しいものを用いて下さい。

②⑪ 大体患部の近くに反応良導点が現われます。又経験によって知られた部位を探索したり、患部を通っている良導絡の四関(肘、膝関節)より末梢部に反応良導点を求めたりして治療します。

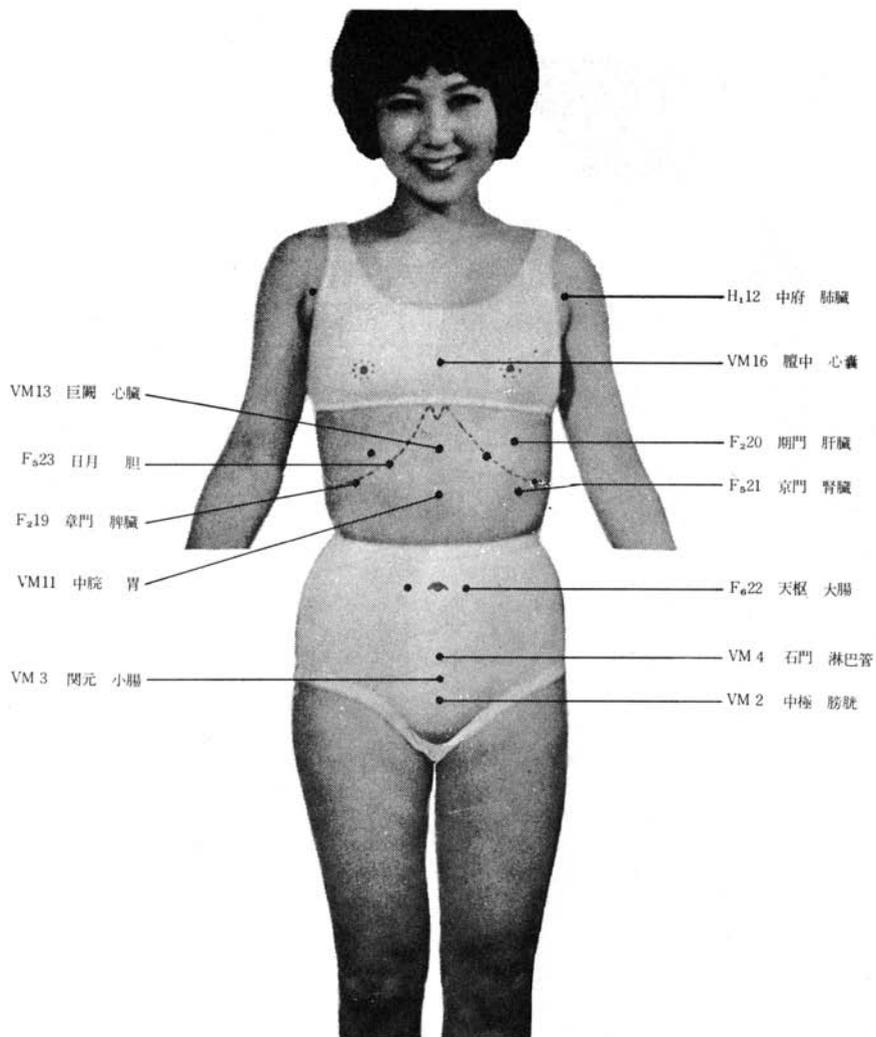
良導絡は反応の系統であると同時に治療の系統であります。それで良導絡の形態をよく記憶しておりますと便利なが多い、又良導絡の異常によって現われる症状等も記憶しておきますと、その症状のあるとき、それと関係のある良導絡を治療すれば良いことになります。

② 1ヶ所に刺激を与えますと全身の皮膚電気抵抗が瞬時にして変動することから全身の自律神経に影響を与えるものと考えております。しかしその差は当然あります。刺激を与えた部位周辺（約直経3～5cm）とその深部及びその左右対象的な部位及び刺激を与えた良導絡（一連の交感神経の興奮性の変動するパターン型）及びそれと密接な関係をもっている内臓及び諸器管と組織（血管や筋等も含む）に特に影響を与え全身にも変化が起ります。

③ 背腰部には俞穴（ユケツ）とよばれる部位があり、これはF<sub>4</sub>良導絡上にあります。これは各内臓名がつけられており、それぞれ内臓と特に密接な関係をもっており、また、その内臓と関係の深い良導絡と連関されていると考えています。例えば不眠症の場合、F<sub>2</sub>（肝）良導絡の興奮しているときに起ることが知られています。最も効果のあるのは、VM（前正中）30、百会（ヒャクエ）とよばれる頭の頂上であります。ここにはF<sub>2</sub>良導絡が入っています。F<sub>2</sub>21と一致します。この場合、F<sub>2</sub>は肝臓と特に関係がありますので背部の肝俞（F<sub>4</sub>44）を刺激しますと、不眠だとか、F<sub>2</sub>良導絡の走行している眼疾患、肝臓、生殖器疾患等に効果があります。俞（ユ）と云うのはソソグという意味で特に刺激を、そそぐ点として治療点に適しています。



後面内臓反射点・治療点(これを俞穴といいます)



前面内臓反射点・治療点(これを募穴といいます)

②④ 胸腹部には募穴といって、五臓六腑と関係の深い治療点があります。募はあつまるで、反応の現われ易い部位です。反応良導点も鮮明にできます。又俞穴と同じく治療点となります。このような点をうまく利用してゆくと治療方針がたちます。

②⑤ 反応良導点の治療方針は、

- 1) 患部の近くの反応良導点
- 2) 患部と左右対象的な部位
- 3) 患部を走行している良導絡の肘膝関節より末梢部に反応良導点を求めます。
- 4) 患部を走行する良導絡と関係の深い内臓名の俞穴を背腰部にとります。
- 5) 患部を走行する良導絡と関係の深い募穴をとります。
- 6) 基本治療点を加えたり
- 7) 主訴以外の治療点を加えたり
- 8) 全良導絡測定を行った場合は、興奮点及び抑制点これは銀粒だけをはり電気針は必要ありません。

興奮点、抑制点以外も銀粒を貼っています。それに電気針刺激を行います。

②⑥ 刺激の強さの配合は、どこにも同じ程度の刺激を加えるよりも、患者さんの苦痛をとまなう主訴の部分を中心に念入りに雀啄電気針刺激を長く行った方が効果的であります。

②⑦ 頭部だけに沢山刺激を与えますと、頭部の血管が拡張しすぎて、のぼせますので、このような場合、肩や腰部6ヶ所、肝俞 $F_4$  44、脾俞 $F_4$  4、腎俞 $F_4$  34、及び足三里 $F_6$  9等を刺激しておく

のほせません。

㉘ 上半身で刺激が強すぎて眩暈が起ったり気分が悪くなったというような刺激の誤りで副作用がでた様な場合にはH<sub>5</sub>2(液門)とという部位を刺激しますと、その過誤が解消します。

㉙ 患者の体質或は興奮性に合わない様な刺激を急に加えますと筋がけいれんを起して針が抜けなくなることがあります。この様な場合には、もう一本の針を、その周辺に刺入して軽く雀啄しますと簡単に抜けます。これを迎え針といゝます。

㉚ 入浴は治療前後2時間以上あけるべきであります。(房事も同じ)。食物は出来るだけアルカリ性食品をとり刺激物(唐子、ワサビ)や油物はさけるべきであります。

㉛ 治療は週に3回が理想ですが一般には週2~3回を標準とします。劇痛のある人では週6回行うこともあります。健康を維持する程度なれば週1回或は10日に1回でも良い。色盲治療等で遠方から旅館にとまって通院しているような場合治療箇所が少ない場合ですので1日朝、夕2回治療してもよい。但しその効果が2倍になるわけではありません。

㉜ 全良導絡の測定は、主として慢性疾患に行いますが、総ての初診の患者には行うべきであります。先づ代表測定点とよばれる、測定部位を記録するなり、わかり易い印刷物を壁にはりつけておきます。(経穴名対照、良導点、良導絡図、定価1,200円についています)。この電流量を良導絡専用カルテに記入します。数字の上に赤い横線を引けば良いわけです。

㉝ 生理的範囲を求めるサンがあります。これは1.4cm巾のサン

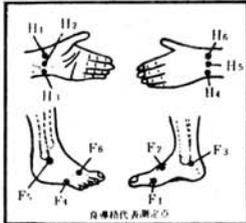
# 良導絡専用カルテ

姓名	殿	年令	才 職		発病 年 月 日	
			年 月 日生	業	初診 年 月 日	
病名	住所		電 話 番 号			

平均値	H <sub>1</sub> 肺		H <sub>2</sub> 心		H <sub>3</sub> 心		H <sub>4</sub> 小腸		H <sub>5</sub> 淋巴管		H <sub>6</sub> 大腸		F <sub>1</sub> (胃)		F <sub>2</sub> 肝		F <sub>3</sub> 腎		F <sub>4</sub> 膀胱		F <sub>5</sub> 胆		F <sub>6</sub> 胃		平均値
	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	
160	190	170	140	170	200	190	200	160	130	150	150	130	150	130	140	130	150	140	130	140	130	150	140	160	
150	180	160	130	160	180	180	140	150	120	140	140	120	130	130	130	120	110	120	120	110	120	130	140	150	
140	170	150	120	150	170	170	130	140	110	130	130	110	110	110	110	100	110	110	100	110	110	120	130	140	
130	160	140	110	140	160	160	120	130	100	120	120	100	100	100	100	90	100	100	90	100	100	110	120	130	
120	150	130	100	130	150	150	110	120	90	110	110	90	90	90	90	80	90	90	80	90	90	100	110	120	
110	140	120	90	120	140	140	100	110	80	100	100	80	80	80	80	70	80	80	70	80	80	90	100	110	
100	130	110	80	110	130	130	90	100	70	90	90	70	70	70	70	60	70	70	60	70	70	80	90	100	
90	120	100	70	100	120	120	80	90	60	80	80	60	60	60	60	50	60	60	50	60	60	70	80	90	
80	110	90	60	90	110	110	70	80	50	70	70	50	50	50	50	40	50	50	40	50	50	60	70	80	
70	100	80	50	80	100	100	60	70	40	60	60	40	40	40	40	30	40	40	30	40	40	50	60	70	
60	90	70	40	70	90	90	50	60	30	50	50	30	30	30	30	20	30	30	20	30	30	40	50	60	
55	85	65	35	65	85	85	45	55	25	45	45	25	25	25	25	15	25	25	15	25	25	35	45	55	
50	80	60	30	60	80	80	40	50	20	40	40	20	20	20	20	10	20	20	10	20	20	30	40	50	
45	75	55	25	55	75	75	35	45	15	35	35	15	15	15	15	10	15	15	10	15	15	25	35	45	
40	70	50	20	50	70	70	30	40	10	30	30	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	20	30	40	
35	65	45	15	45	65	65	25	35	5	25	25	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	15	25	35	
30	60	40	10	40	60	60	20	30	0	20	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	20	30	
25	55	35	5	35	55	55	15	25	0	15	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	15	25	
20	50	30	0	30	50	50	10	20	0	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	20	
15	45	25	0	25	45	45	5	15	0	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	15	
10	40	20	0	20	40	40	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	
5	35	15	0	15	35	35	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	

(良導絡測定専用グラフ式カルテ・不許複製・医学博士中谷雅雄著・大阪市西成区桜通七丁目良導絡研究所発行)

興奮点	H <sub>1</sub> 3	H <sub>2</sub> 1	H <sub>3</sub> 1	H <sub>4</sub> 3	H <sub>5</sub> 3	H <sub>6</sub> 1	F <sub>1</sub> 2	F <sub>2</sub> 9	F <sub>3</sub> 7	F <sub>4</sub> 1	F <sub>5</sub> 2	F <sub>6</sub> 5	興奮点
抑制点	H <sub>1</sub> 8	H <sub>2</sub> 3	H <sub>3</sub> 3	H <sub>4</sub> 8	H <sub>5</sub> 10	H <sub>6</sub> 2	F <sub>1</sub> 5	F <sub>2</sub> 2	F <sub>3</sub> 1	F <sub>4</sub> 3	F <sub>5</sub> 7	F <sub>6</sub> 1	抑制点
測定日時	年 月 日 時					室温	度 体温		度				



- ① 動悸
- ② 下腹がはり 頭痛
- ③ 耳鳴り、小便が近い
- ④ 肩のこり
- ⑤ 胃弱、膝関節痛
- ⑥ 不眠
- ⑦ 後頸部のこり
- 背のこり、腰痛
- 足がだるい

ですから簡単につくれます。このサシを横にあて、求められた電流量の赤線のやゝ真中にあてます。多くの場合上と下に幾つかがでるはずであります。大体に上に3〜4ケ、下に3〜4ケでる様にサシをおき、そこに1.4 cmの巾の線を引きます。この間に入ったものが生理的範囲であり、こゝに入った良導絡は健康即ち正常というわけです。上に出た良導絡は興とよび、興奮性が高く病的であります。下に出た良導絡は抑とよび、やはり病的であります。

③ 生理的範囲の求め方がわからないといわれる方が多いのですが、学問的には24ケ所で測定した電流量を合計して24で割って平均値を求めて、カルテの左右に平均値が書いてありますから、それに1.4 cmの中央をあてればいいわけです。平均値が70なれば70のところサシの巾の中央をあてますと上に0.7ミリ、下に0.7ミリ合計1.4 cmが生理的範囲となります。臨床的には、この様な計算をしないで、12人の学生がいる、この中で3〜4人特に成績の良い子は誰か、又3〜4人特に成績が悪い子は誰かと、たづねられたと思えば良い、興と抑を各3〜4個求めれば良い、場合によっては、Hのつく良導絡手で測定した良導絡全部が高く、Fのつく良導絡、足で測定した良導絡全部が低くて、興が6つ、抑が6つということもできます。この場合には生理的範囲内には一つもありません。生理的範囲というのは症状のでなかった良導絡の入っていた範囲をいうわけで、その巾は一定ではなく算術平均値で求めたものですから、必ずしも1.4 cmにとらわれることはないわけです。何 $\mu$ A以上は興とか、以下は抑というのではなく全般と比較して興、抑を求めます。

⑳ 電流量が全般に高いのは、温度の高いとき、患者が若いとき元気のある人、急性疾患に多く、交感神経の緊張を示していますので病気を治す力が大きいと考えられます。同時に症状も劇しくでます。良導絡のバラツキはストレス（歪み）の状態を示しています。これを調整する力が恒常性であり自律神経系がこれに大きく関与しています。我々はこの恒常性の力を大きくする迄に刺激を加えています。

㉑ 電流量が全般に低いときは、温度の低い時、老人、元気の無い人、慢性疾患に多く交感神経の機能減退を示しており、症状は、あまり劇しくないが病気は治り難い、日数がかかります。弱い刺激を持続的に用いる（銀粒や灸刺激が良い）電気針の場合、雀啄をゆるくし、12秒前後がよい、置針も良く効く、F6 良導絡の電流量が0に近づくと生命力が低下しており、生命に危険があります。癌患者では、全般の電流量がおちてくる、又、膀胱癌の様な場合F1良導絡の抑といったこともある。

㉒ 各良導絡の興と抑によって、特定の症状のでることが知られています。この症状を記憶することによって、良導絡の測定を行いますと患者さんの症状を、あてることができます。これを良導絡の不問診とよんでいます。この様に医者から先に症状をあてられますと患者は頭から信頼してしまいます。治療には、心理的效果を否定できません。信頼されて病気が速く治れば、これ程結構なことはありません。

㉓ 良導絡の興抑がわかりますと、その良導絡上の如何なる部位にでも、電気針（陰極200 $\mu$ A 7秒）通電を行いますと、良導絡

良導絡症候群 (多は中谷医院に於て任意の500名の患者の統計による)

良導絡	(興)電流量の病的に多い場合		電流量多 多少に拘 らず異常 の起りう る部位	(抑)電流量の病的に少ない場合	
	良く現われる症状	時々現われる症状		良く現われる症状	時々現われる症状
H <sub>1</sub>	(肩のこり77%)(背部の異常39%)(のぼせる26%)(痔15%) 喘息5%	動悸・肩背痛 扁桃腺炎・咳	鼻・肺・ 皮膚	(手足が冷え或はしびれる57%)(頭痛45%) 呼吸苦しい31%) (眩暈24%)	皮膚異状・咽喉が乾く・肩背痛・咳
H <sub>2</sub>	(肩のこり81%)	心臓の異常 上歯痛・便秘	心臓	(心悸亢進47%) (頭痛44%)	言語障碍・胸苦しい 手掌が熱く感ずる
H <sub>3</sub>	(胃がはる49%) (便秘42%) (五十肩23%)	手足が重く・咽が乾く・心臓の異常・上腕が冷える・目黄ばみ手のひら熱い・身熱・言語障碍	舌・腋窩	(心悸亢進54%) (嘔気14%)	心臓下部の痛み・不安・言語障碍・手掌が熱く感ずる
H <sub>4</sub>	(頭痛49%)(手足の力が弱い43%)(下腹に異常39%)(五十肩20%)(ロイマ16%)	便秘・口瘡・身熱・頭が回し難くなる	リウマチス 耳	(頭痛43%) (下腹に異常36%)	耳鳴・難聴・手足が冷える・下痢
H <sub>5</sub>	(小便の異常33%) (耳鳴19%)	難聴・顔面赤く汗が出る・咽喉が腫れる・微熱がある・疲れやすい	乳糜管 ・耳	(呼吸苦しい34%) (嘔気13%)	腹がつかえる・体色腹が濃くなる。微熱
H <sub>6</sub>	(肩のこり77%)	胸痛・痔・頭痛・腹痛 眩暈・手指倦怠・皮膚異常	口(歯)・ 皮膚・肩・ 鼻	(肩のこり69%)	便通異常・皮膚異常 下痢・喘息・不快で 気分が落ちつかない 咽喉が乾く
F <sub>1</sub>	(胃弱54%) (関節に異常28%)	審腹・腹がはる・嘔気 胸苦しい・食傷・下痢 便秘	胃・肋間 脈・ (精神)	(胃弱62%)(経に異常30%)(便秘28%)	便通異常・嘔気・腹 かはる・疲れやすい 不眠・食事がまづい 糖尿
F <sub>2</sub>	(腰痛56%)(睡眠47%) (立ちくらみ37%)(眩暈23%)(月経異常5%)	目に異常・生殖器の異常・気分不快・月経異常・肋間神経痛	生殖器 (子宮・ 睾丸・卵 巣)肋間 筋肉・目	(足腰が冷える54%) (立ちくらみ37%) (ゆううつ21%)	小便もれやすい・視 力減退・気力が不 脱腸・肋間神経痛
F <sub>3</sub>	(気分不快46%) (嘔気72%) (ノローゼ8%)	生殖器の異常・咽舌が乾く・胸さわぎ・足が熱い・性力異常	副腎・ 耳・大脳 生殖器	(根気がなくつかれやすい81%)(足腰が冷える60%)性力減退	記憶力減退・耳鳴 便通異常
F <sub>4</sub>	(後頭部のこり4%) (足の神経異常47%) (坐骨神経の異常36%)	背中ははる・頭痛・涙が出る・眼の奥が痛む或は異常感がある・鼻出血・脳の異常・網膜の場合	耳・鼻・ 脳・脳下 垂体	(後頭部のこり72%) (手足重く力が弱い50%)(背部の異常47%)	坐骨神経の異常・痔 腦の異常・網膜の場 合
F <sub>5</sub>	(口苦21%) (咽喉に異常14%)	食欲不振・恐りやすくなる・悪感発熱	目・頭部	(目に異常49%) (眩暈23%)	眩暈・手足の力が弱い・よろめく・喘息 目黄ばむ・顔に元気がない・血圧異常
F <sub>6</sub>	(後頭部のこり70%) (関節に異常30%)	乳腺の異常・口唇が乾く・食欲異常・熱があり発汗しない	精神・口 (歯)・鼻 上眼瞼・ 乳腺	(肩のこり69%)(便秘27%)(胃がはる29%) (ゆううつ20%) (あくび18%)	腹がなる・口唇が乾く・腹痛・顔面浮腫 悪感・下痢

(自律神経)の恒常性の作用により興は抑制し、抑は興奮してきます。1回で調整されるというわけではありません。これを隔日に続けてゆきます。実験の場合、刺激を与えて30分後に検すれば良い単に電流が多くなったから、少なくなったからというのではなく、平均値と比較して、平均値よりの差を問題にします。

㊸ 同一良導絡上でも、興奮性を高めやすい点と、抑制させ易い部位のあることがわかりました前者を興奮点、後者を抑制点となくしました。この部分に電気針刺激を与えても良いわけですが、手足の末梢部に多く存在しますので、針の刺入によって痛みを強く感じますので、私は電気針の代りに銀粒をはっています。特に末梢部は銀粒がとれ易いので、その上からテープ絆創膏で固定しています。これは貼ったまゝとれるまで貼っておきます。とれますと新しいものを貼りますが、この場合、同一部位より1mm~2mmずらして貼っています。同一部位では刺激にナレが生ずるからであります。消毒用アルコールで一度ふいて乾いてから貼ります。特に絆創膏にかぶれる人は、マーキロ絆創膏とか(ほとんどかぶれない絆創膏が米国製で、でています)銀粒が全く使用できない人では電気針を、かく行うか、興奮点、抑制点を使用しないで肘膝関節部の筋肉の多い部位に電気針を行います。

㊹ 針をさす方向によって興奮しやすい、抑制しやすいことが知られています。これを迎随とよんでいます。が初心の場合は、これは略して、浅く刺入する、平行や角度の強い斜刺を行いますと平均、興奮性を高め易く、深く直刺しますと抑制しやすい傾向がみられます。(興奮性を高めるということは交感神経の興奮でありますから

交感神経の作用を考えていただくと理解されます。血管を収縮させる等)

④① 血液循環即ち血管の走行は解剖(組織)図で知るところであります、この血管を支配している大まかな神経支配図が良導絡であると考えています。従って全部の良導絡を調整することは、全身の血液循環を良くし、ホルモンの分泌、消化液の分泌、内臓諸器管の働き等一切を支配していますので全身の自律神経調整ということになります。良導絡—自律神経中枢—内臓は三角関係になって結ばれています。自律神経系はホルモン分泌より高次に存在し、自律神経系(中枢)は脳下垂体を介して支配ホルモンを分泌させています。自律神経自身も末梢から局所ホルモンを分泌しており副腎髄質を支配していることは古くより知られています。

④② ホルモン(内分泌)刺激点を臨床的に求めて治療点として、活用しています。皮膚の一部を刺激してはたしてホルモンが分泌されるだろうか現代医学常識で考えるわけですが、乳を吸うことによって脳下垂体より乳腺発育促進ホルモンや子宮収縮ホルモンが分泌されることが知られています。この様なことから考察しますと乳という皮膚の一部分を刺激することによってホルモンが分泌する可能性が考えられますので事実この様なホルモン点を刺激して、こうしたホルモンの分泌されることを科学的に証明していただきたいものであります。

甲状腺ホルモン                      VM<sub>23</sub> (廉泉)

ランゲルハンス島インシュリン      VM<sub>11</sub> (中脘)

女性ホルモン                          F<sub>314</sub> (気穴)

男性ホルモン	F <sub>3</sub> 1 2	(横骨)
脳下垂体	H M 22	(風府)
副腎ホルモン	H M 6	(命門)
	F <sub>4</sub> 33	(志室)
	F <sub>3</sub> 7	(復溜)
脳下垂体(陣痛促進)	F <sub>4</sub> 1	(至陰)
脳下垂体(乳腺発育ホルモン 子宮収縮ホルモン)	F <sub>6</sub> 30	(乳中)(針は禁?)

以上は臨的に知り得たので未だ科学的根拠はありません。

④ 一般に電気針治療を良導絡とよんでいます、電気針のみを使用した場合は電気針療法であり、良導絡の理論を利用した治療法を良導絡治療といいます。刺激としては電気針のみにこだわる必要はありません。遠方で度々来院できない患者さんは自宅で灸を行わせて治すこともあり、これは患者に親切だとも云えます。

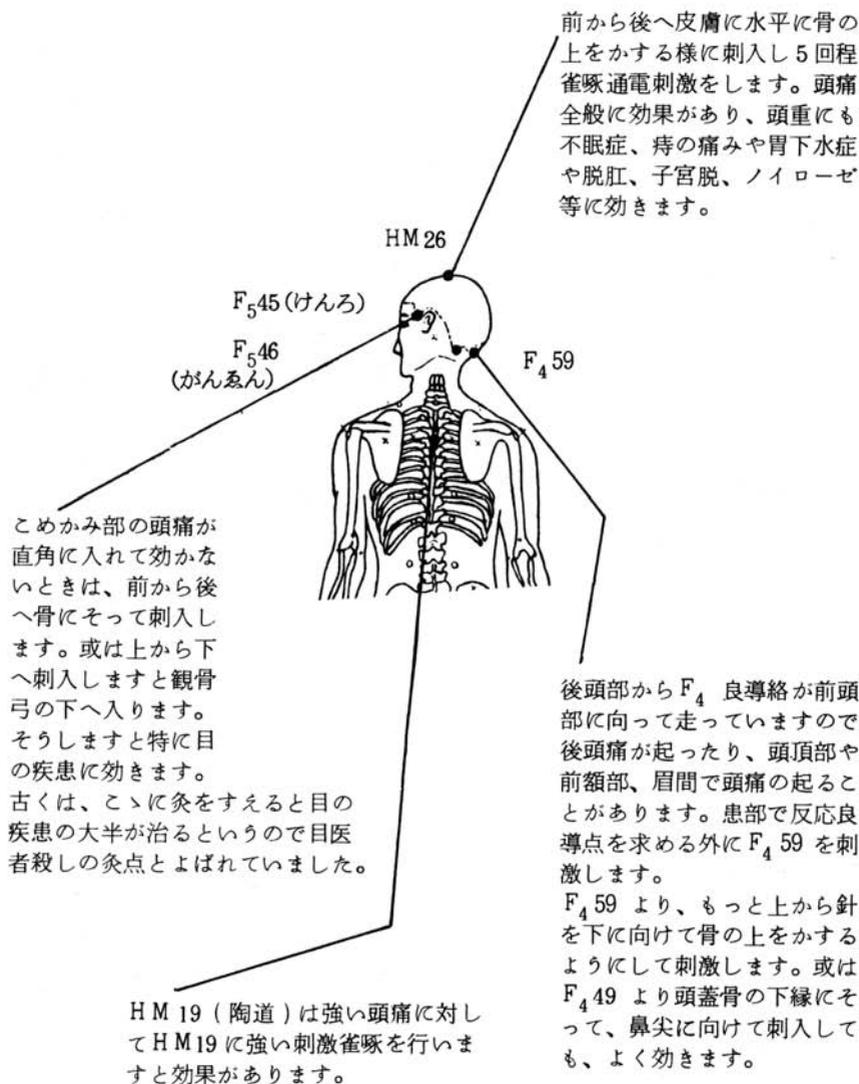
針と灸とは違った刺激作用をもっており血管が収縮を起している場合、針は交感神経を抑制させて血管の拡張を起させ、灸は副交感神経系を興奮させて、血管を拡張させるというように両者異った作用機転があると考えており、古人は『針して灸せざるは名医に非ざる也』と云っています。こうした意味で我々は温熱刺激特に温灸器の研究を進めています。現在では堀越の電灸器とか、稲垣式の温灸器を使用されると良いでしょう。

④ 以上は最も簡単に臨床応用のみを考えて述べたものであってくわしく基礎の研究をされないと仲々応用ができず、一寸難しい病気に逢いますと壁にあたってしまうので臨床に従事しながら、

「良導絡自律神経調整療法」という本を何回もお読み下さる様お願い致します。

# 各種疾患に於ける反応良導点(經驗的治療点)の位置

## ① 頭 痛



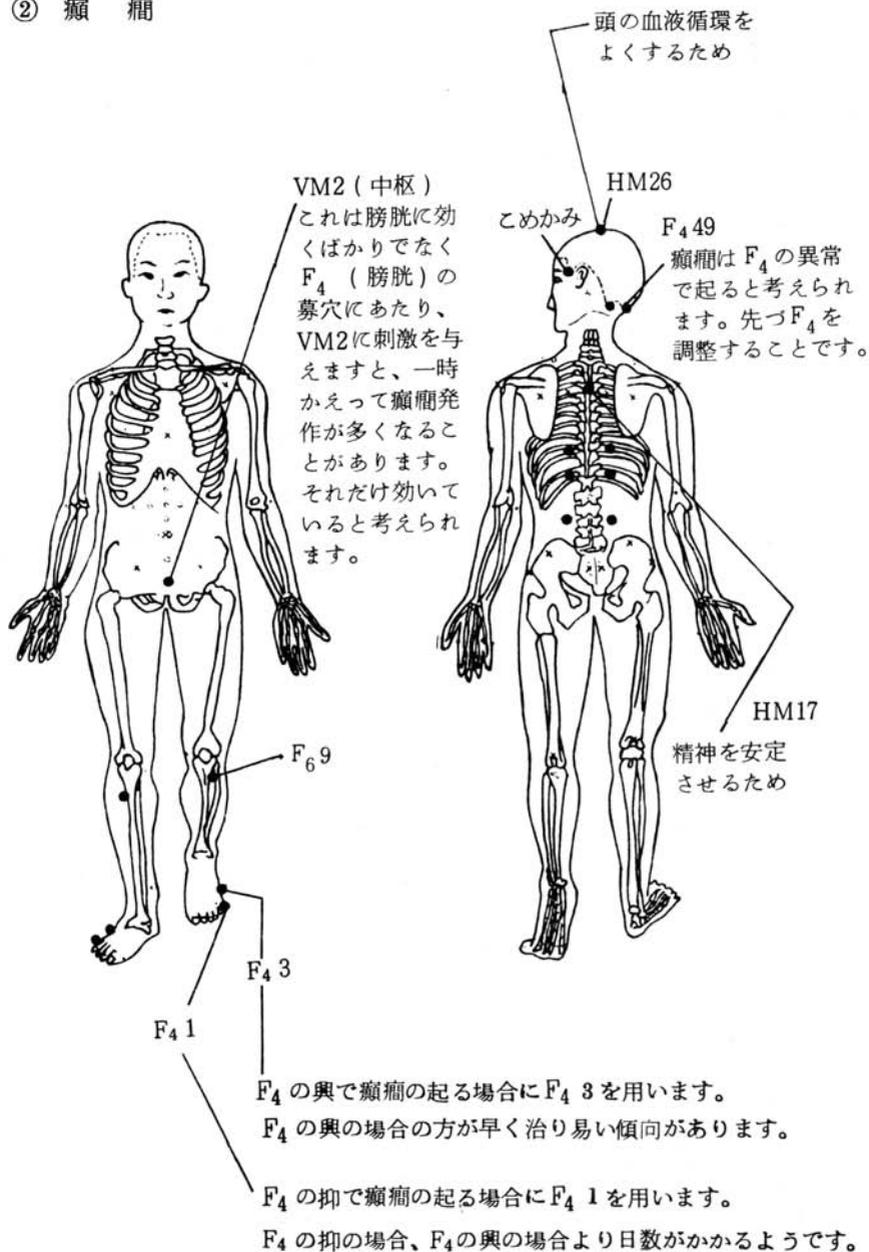
以上HM26、左右のF<sub>5</sub>45、左右のF<sub>4</sub>59、HM19の6ヶ所が特に頭痛に良く治療点であります。頭に入っている良導絡の肘膝関節より末梢部に反応良導点を求めて刺激を与えても鎮痛します。H<sub>4</sub>(小腸)良導絡は頭痛や偏頭痛を起す良導絡で、こめかみ部分等にも連絡があるのではないかと考えています。F<sub>5</sub>(胆)良導絡は頭全般に分布していますが、頭痛を起すことは稀で頭重が起ります。頭重も頭痛と同じ様な部位を治療すればよい。頭部だけを治療しますと、逆上しますので背部6ヶ所、F<sub>4</sub>44(肝俞)F<sub>4</sub>40(脾俞)F<sub>4</sub>34(腎俞)及びF<sub>6</sub>9(足三里)等にも刺激をしておきます。

又この頭痛の原因がわかれば原因療法を行います。例えば高血圧による頭痛の場合には高血圧の治療をします。常習性の頭痛等は前述の治療のみで治ることが多い。原因が考えられるが、はっきりしない場合には、これに全良導絡測定治療を加えるとよい。

ノイローゼ、不眠症等も同一の治療法で治ります。

不眠症の場合はF<sub>2</sub>(肝)の興で起りますのでF<sub>2</sub>の抑制点、F<sub>2</sub>2(行間)に銀粒をはるか、電気針を行います。F<sub>2</sub>(肝)の俞穴は基本治療点の中に入っていますので、この部分は特に念入りに治療しておけば更に効果が大きくなります。数回治療しても仲々眠れないと云う様な場合には、精神安定剤を与えながら、F<sub>2</sub>1～F<sub>2</sub>8までの各良導点左右全部を治療すると急に眠れるようになった患者もあります。良導絡を測定してみますと稀にF<sub>1</sub>(脾、膵、胃)良導絡が抑で眠れないことがありますので、この場合にはF<sub>1</sub>2(大都)或はF<sub>1</sub>2～F<sub>1</sub>9まで刺激しても良いわけです。

## ② 癲 癇

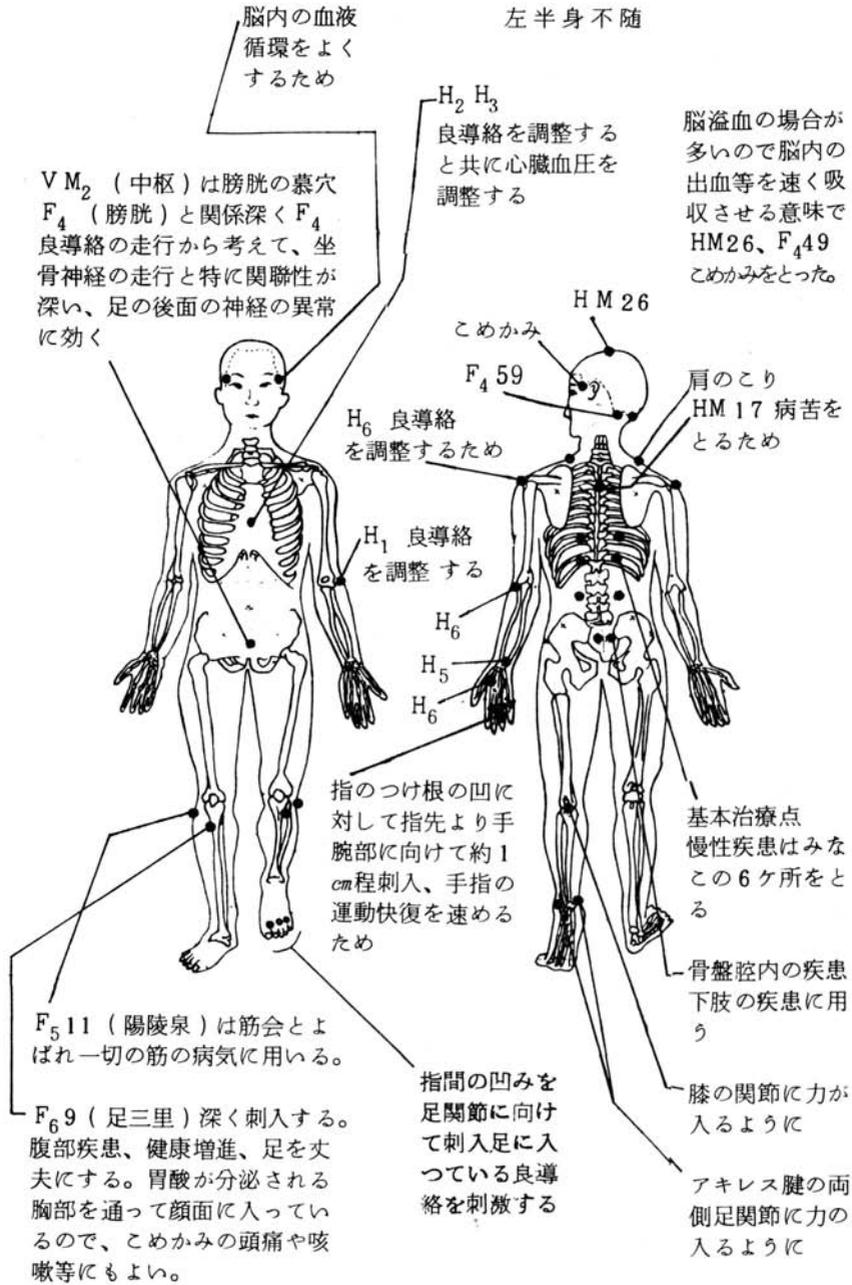


癲癇は可成り日数がかかる病気ですので1ヶ月間に1回良導絡の測測定を行い、自宅で灸治療を行わせています。1ヶ所に半米粒大（米粒の半分ぐらいの大きさの艾）を1ヶ所3壮（3回同じところに灰をとらないですえます）或は5壮施灸します。日曜日だけ休んで毎日1日1回づつ施灸させます。近くで治療を受けたい人では週に2回治療を行ない、その日は灸を休みます。大体に治療を行いますと大半は半年間は前より発作回数が多くなり強くなる傾向があり、しだいに回数も減少して1年ぐらいから発作が起らなくなる人がでてきます。長い人では2年間で起らなくなります。2年以上の人も稀にありますが8割までは2年以内に発作が起らなくなります。発作時手をぐにゃぐにゃと動かす人では、私の経験では治りぬくい様な感じがします。癲癇に効くという薬は、あまり強いものを与えない方がよいと思います。最も古い歴史をもっているアレピアチンだけは発作回数が減少してしまいうまで服用させています。

### ③ 半身不随

以上の外に四肢を動かしてみても痛む部位や、筋がひきつる部位あるいは圧痛点、反応良導点があれば、それらの部位を追加して電気針を行います。半身不随等はとても効果がないと信じておられる方が多いが案外効果があります。しかし可成長期に治療をつづける必要があります。卒中を起してから日の浅い者程効果が大きい。半身不随に特に特効点というものはない。脳溢血の後遺症も個人差があるので大体の標準を示しました言語障害がある場合にはHM 21（癲門あもん）は、癲（おし）の間で、ここを上手に刺激すると言語障害が速く治るといわれています。これは中枢性のものに良い、舌が

左半身不随



もつれる場合には F<sub>4</sub>50 (心俞) を加えると良い、心臓は舌と関係が深い。形もよく似ています。

#### ④ 色盲

ほとんどは赤緑色弱です。不治の病と信じられてきました。昭和37年に色盲治療を発表して、間もなく54名の医師の方の治験例を募集致しましたところ1103例が集まり、石原式色盲表を新しく正読出来た数と治療した回数を比較してみますと、約6回程の治療で新しく1表正読出来ることがわかりました。

これは半田屋から出版されている石原式学校用色盲検査表(10表)であります。(この本も最近少し難しくなっている様です)。金原出版から出ている14表は、10表のものより正読しがたく、治療回数が余計にかゝります。色盲検査表は種類が多く、幼児用、或は東京医大式(これは価格が少し高いのが難点、しかし合理的に出来ています)ランタン法とか、大熊式とか色々あります。その中で最も色覚の向上を正確に知るには、アノマロスコープの検査が必要であります。これは、専門的知識が必要でありますので又時間もかゝりますので入学試験等には使われていません。色盲患者で最も困るのは

- 1) 理工科の入学試験の時
- 2) 就職試験の時
- 3) 結婚時の健康診断書の時
- 4) 自動車の運転免許をもらうとき

色盲の検査法が進んで治療が進まないというのは困ったものです。昭和46年8月には、良導絡自律神経学会の会長であります野津

謙博士と私達12名の者が国際学校保険学会発表の為リスボンへ行って参りました。会長は全国の小学校8校の生徒の中で色盲患者を全員治療した成績を代表して発表され、私はその翌日、色盲治療の実技を公開しました。これはポルトガルのテレビ及び新聞にも報導され大変な反響をよびました。

色盲表が全部正読できても治ったことにはなりません、それだけ色覚は向上したことになる、学生の画く絵が治療によって正しい明るい絵になってきた例を沢山経験しています。大体50～100回ぐらいの治療で10表のもの14表のものが正読できる場合が多い8割の患者さんは可成良くなっています。(治療予想回数は、良導絡自律神経調整療法を参照して下さい)

治療点は、こめかみの反応良導点を2ヶ所程求めます、目の外眦と耳のつけ根の上線を結ぶ線上で、毛のはえていないところです。良導絡図には反応良導点名がありませんので色盲治療点A、B点と名づけていましたが、色盲以外に仮性近視でも結膜炎や白内障等他の多くの眼科疾患に効果がありますので眼科治療点A、Bとよんでいます。丁度目がねの外軸の下にあたります。こゝから電気針を行いますと、顴骨弓のウラに入ります。なるべく深く刺入し7回程軽く雀啄します。もし中に筋の硬いところがあれば、その硬い筋にあてます。ほとんどが15才ぐらいまでの少年のことが多いので恐怖心によって軽い脳貧血を起すことが5%程ありますが全く心配はいりません。

1回目は特に良く効くことが多く、多くの例では1表か1表半は新しく正読できることが多いのであります。これだけでほとんど効

眼科治療点A

F<sub>6</sub>52は眼球の下をかすって入れるのですからこれは危険もあり又内出血が度々起りますので使用しない方がよい。

緑内障によく効くF<sub>6</sub>51も効くが案外痛いのでやらないでよい。

B点

F<sub>5</sub>30 (風池)

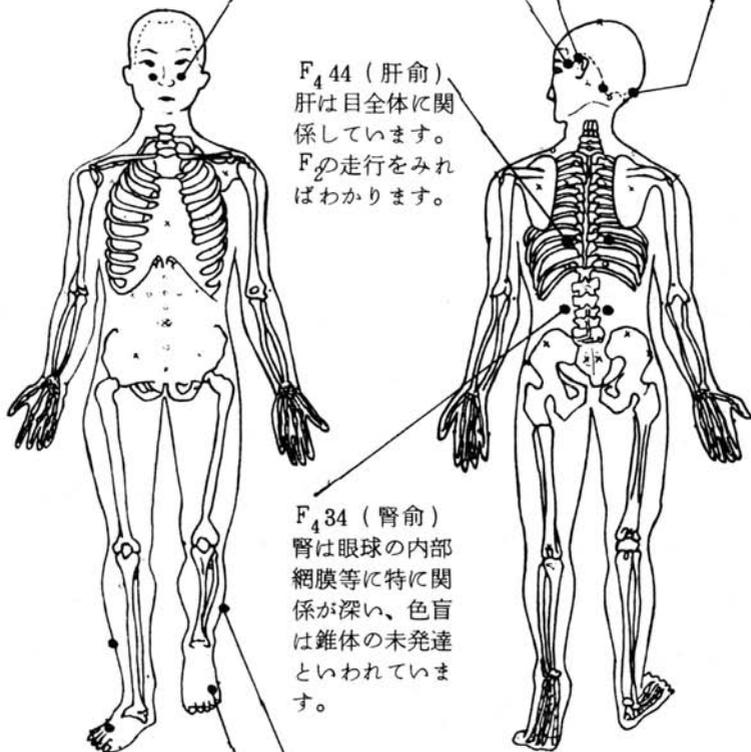
これはF<sub>5</sub>良導絡上で目の疾患に効きます。F<sub>4</sub>45の外側で首の外側と後側の間で筋の最も凹んだところの頭蓋骨の下縁のところです鼻尖をめがけて2~3cm刺入します。

F<sub>4</sub>44 (肝俞)  
肝は目全体に関係しています。F<sub>2</sub>の走行をみればわかります。

F<sub>4</sub>34 (腎俞)  
腎は眼球の内部網膜等に特に関係が深い、色盲は錐体の未発達といわれています。

F<sub>5</sub>8 (光明)は視力減退とか目に関係があります。(光が明らかとなる)

F<sub>5</sub>3 (地五会)も経験的に色盲や視力減退に効きます。



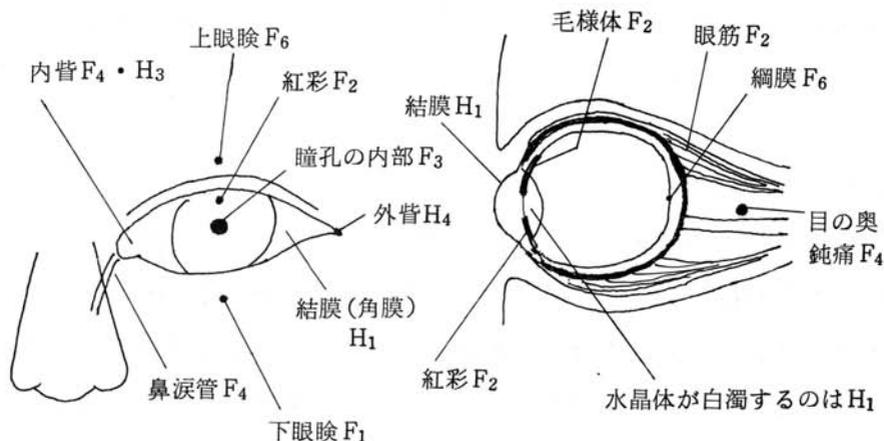
くことが多いのですが、補助的に、F<sub>5</sub>30、やF<sub>4</sub>44、F<sub>4</sub>34、F<sub>5</sub>8、F<sub>5</sub>3 等を加えても良い。F<sub>4</sub>44やF<sub>4</sub>34 を用いると服をぬがねばならないのでこれを略することが多い、もし色盲治療で、どうも効果がでない場合は置針に切りかえるとよい。10回治療して新しく1表正読できない場合は、治療をうちきる。1人でも治すと自信ができます。1回やってみないことには一生この治療ができないこととなります。

#### ⑤ 仮性近視

治療点は色盲治療点と同じ、視力表を同じ明るさで、左、右、裸眼、左右眼鏡をかけて検査します。近視専用カルテが良導絡研究所にあります又色盲専用カルテもあります。このようなカルテを使用することによって患者さんも信用する様になります。大体平均4回ぐらいの治療で一段づつ下が読めるようになります。軸性近視には効果がないと考えられます。

⑥ 結膜炎、流行性の結膜炎の場合、伝染性が強いので消毒に気をつけねばなりません。これは眼科にまかした方が、賢い様です。慢性のものや目の充血したものやその他の原因によるもの、痛みは簡単にとれます。眼科治療点に刺激を与えますと瞬時にしてとれますが、目の上をF<sub>2</sub>肝良導絡の膝関節より末梢部で反応良導点を求めて、電気針を行いますと先づ刺激した例だけ目の痛みがとまってしまう。この様に遠い部位を治療して痛みをとめますと患者さんはびっくりします。患者さんを驚かせて嬉こぶのを療道楽(りょうどうらく)と云います。F<sub>4</sub>44(肝俞)等に刺激を加えてみることも面白いでしょう。

目には沢山の良導絡が入っており、目全体には  $F_2$  良導絡、部分的には図の如き良導絡が関係していますので、その部分の疾患の場合は、その良導絡の末梢の反応良導点をつけ加えて刺激するとよいわけです。



### ⑦ 目の奥の鈍痛

目の奥の鈍痛を訴える患者が度々あります。ほとんどの患者は後頸部のこりを訴えます。 $F_4 49$ (天柱)に電気針を行いますと、直に鎮痛します。鼻涙管がつまって涙がこぼれる患者にも効きます。この場合は、この上に目の内眦より、やゝ下より鼻涙管の走行にそって針を骨の上をすべらせるように刺入しますと、よく効きます。勿論眼科治療点でも効きます。この眼科治療点で、さかまつげ、斜視等にも効きます。

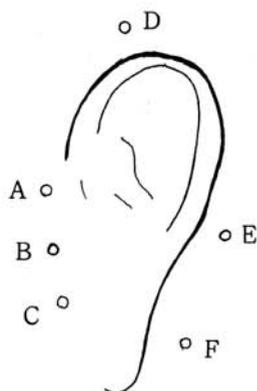
### ⑧ 白内障

白内障にかゝりますと多くの場合、失明したら手術をしましょうと云われます。即ち失明を待っているようなものであります。日数

は約1～2年かゝりますが、7割ぐらいの人は、眼科治療点毎日施灸と全良導絡1ヶ月に1回の測定とで良くなってきています。視力表は0.1も全く見えず人間の輪かくしか見えなかった患者が一年間で新聞を読めるようになって感謝された例もあります。緑内障は全良導絡を調整しながら、目の内眦から眼球のウラの方に細い針を刺入すると良く効くことがあります。技術的に難しいのと、度々出血して、目のぐるりが緑色になってうらまれることがありますので、あまりおすすめできません。網膜色素変性とか、視神経炎等には、あまり効果が今のところでておりません。

### ⑨ 耳 鳴

耳鳴は耳鼻科でも仲々治し難い疾患の一つであります。勿論良導



絡治療でも思う様に治らないことも度々ありますが、難治だと思っていたものが案外簡単に治る所があり嬉ばれることがありますので一応やってみるべきであります。

耳口の前やや上部に耳門(H<sub>5</sub>30)があります。こゝを示指で軽く圧さえてみますと動脈の動悸を感じる場所があります。この

動脈を治療点として電気針にて刺激します。動脈の周囲を交感神経がとりまいて走っています。この動脈にあると一回で耳鳴が楽になることがあります。しかし耳鳴には原因が沢山ありますので仲々治らないものもあります。

治り難い場合、一応耳の周囲反応良導点 A～F の 6 点を治療してみるべきです。

#### ⑩ 難 聴

難聴を起す原因によりその治療効果は異なりますが、著効は約 35%、やゝ有効は 45%、無効は 20% であります。

中耳炎とか外傷、高熱によるものは割合成績は良く、ストマイによるものでは、ほとんど著効はなく、ほとんどがやゝ有効であります。治療点は、⑨で前述した耳疾患治療点 A～F に電気針を行うか銀粒を貼った上から各 3～5 壮つつ半米粒大の施灸を行います。小児等では銀粒だけで効果の現われたものもあります。

私は、A B C と一つずつ刺激せず A より刺入して骨の上をすべらせて、A、B、C を同時に刺激してしまいます。

難聴は一般的には、すぐ効果の現われることは稀で 10 回以上で効いたかなと云うことがわかれば良い、150 回治療して効果のないときは、あきらめるべきであって、普通は 300 回ぐらい治療をつづけるべきであります。又電気針を行っていてあまり効かないで施灸して急に効果がでた例があり、又その逆の場合もあるので適当に混合して治療した方が良いでしょう。

#### ⑪ メニエル氏病

耳鳴、難聴、眩暈をともなう患者では、眩暈をもっとも主訴としています。良導絡では F<sub>5</sub> の抑によって眩暈が起りますが、眩暈を起す原因となるものが沢山ありますが迷路に影響を与える場合血液循環に関係するもの等何れも F<sub>5</sub> 良導絡の異常として良導絡で観察しており、これを調整することによって、原因にまで効果が現われ

てきます。F<sub>3</sub>（腎）のでも耳鳴が起りますが眩暈とは直接関係なく耳に入っている良導絡では、H<sub>4</sub>（小腸）がH<sub>4</sub>22（聴宮）から耳に入り、H<sub>5</sub>（淋巴管）はH<sub>5</sub>30（耳門）から入りF<sub>3</sub>（腎）はF<sub>3</sub>29（俞府）より扁桃腺を通して耳に入っています。F<sub>5</sub>（胆）はF<sub>4</sub>44（聴会）より入り、F<sub>4</sub>は（角孫）より、H<sub>5</sub>はH<sub>5</sub>20（翳風）からも入っています。この様に多くの良導絡が入っていますが直接眩暈と関係のあるのはF<sub>6</sub>（胆）であります。

従って最も効果のある治療部位は耳周囲A～F点の内、F<sub>4</sub>44（聴会）はF<sub>5</sub>（胆）良導絡が耳に入りこむ入口の治療点ということになります。多くの10～20回の治療で眩暈が起らなくなります。

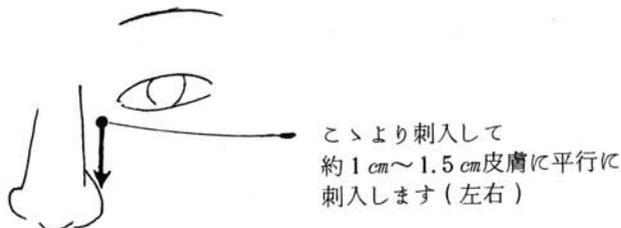
#### ⑫ 嗅覚麻痺、副鼻腔、蓄膿症、肥厚性鼻炎、アレルギー性鼻炎

単純なるものではH<sub>6</sub>（大腸）良導絡上にH<sub>6</sub>27という部位があります。この部位は迎香（げいこう）とよばれ香を迎えるですから、嗅のわからないものを治す治療点と解されます。丁度鼻翼の外側ですが、もっと上部の内眥のやゝ下より（約1cm弱）より鼻にそって下を向けて骨の上を、こする様に針を刺入しますと、特に効果が大きくなります。よく効くものは1回治療直後から効果があります（マッチをすって火がつく時に硫黄の嗅がしますが、これが全くわからない者が治療直後にわかったという例もあります。）普通5～10回ぐらいで効くことが多いが原因によっては仲々治らないこともあります。蓄膿症は治療しながら漢方薬の葛根湯をのませ、又抗生物質を与えながら治療しますと、今まで、あまり効果がないと思われた抗生物質が急に効き出したという様な感じをうけます。

普通30回、念のため60回治療しておきますと再発しないと考  
えています。

肥厚性鼻炎、アレルギー性鼻炎も同上の治療で効果があります。  
勿論鼻閉等にも良く効きます。鼻閉の際横を向いてねている場合、  
反対側を向くと急に鼻閉がとれることを経験された方が多いと思ひ  
ます。これは反側の圧反射によって効果がでるとされています（高  
木健太郎教授説）。

鼻の充血等は単に圧刺激を加えるだけで1～2分で効果が出てき  
ます。アレルギー性鼻炎の場合、アレルギーという近代医学で治し  
難い、うるさい体質をもっていますので、全良導絡を調整しながら  
砂糖の様なものをへらし、或はやめて、出来るだけカルシウムをと  
る様にしますと良く効いた例があります。



### ⑬ アフター性口内炎

ルゴール氏液をぬっても良く効きますが、一寸、ぬりすぎた為、  
健康な粘膜部分も破壊されてしまうというようなことが度々ありま  
す。この様な場合、その口内炎を起している部位に、電気針を浅く  
行いますと、直ちに鎮痛して早く1回で治ってしまいます。口内の抵  
抗力を強めるためにはH<sub>6</sub>4（合谷）に刺激をします。H<sub>6</sub>4を刺激  
しますと皮膚全体の抵抗力が強くなりますので、何れのフルンケル  
とか、瘍といった或は湿疹の様なものにも効果があります。この部

位に電気針を、あまり強く行いますと筋の痛みが強い場合がありますので、しかし強い刺激程効果がありますので置針10分～20分か、灸(半米粒大)50壮～100壮行いますと特に良く効きます。

中国の針麻醉(これは本当の麻醉ではなく、針麻醉であります。麻醉とは薬物を使用して神経の興奮性を正常以下にすることであり、ます)等ではH<sub>6</sub>4(合谷に持続的な強刺激を与えています。これによって、全身の皮膚の知覚鈍麻が起るものと考えられます。手術前25分ぐらいも前から刺激が行われています。

#### ⑭ 舌性言語障害、味覚麻痺

特に末梢性の場合には、背部のF<sub>4</sub>50(心俞)に電気針を行いますと、良く効いた例では1回で物が言える様になったことがあります。H<sub>3</sub>良導絡の肘関節より末梢に反応良導点を求めても良い。舌と心臓というものは形も良く似ていますが神経的にもつながりがある様です。言語障害の様に運動神経の異常であっても、味覚麻痺の様に知覚神経の麻痺であっても、治療点は同じであります。即ち部位と部位の関係であって、自律神経を調整してやれば何れも良くなってくると考えています。その理論は今後更に研究しなければなりません。

#### ⑮ 歯痛

#### ⑯ 声門浮腫

2ヶ月前より、ほとんど声のでない患者があった。種々耳鼻科で治療したが治らないという、筆談で主訴等を記録する、全良導絡を測定して電気針を行おうとすると針を刺入するのは恐ろしいというので、やむを得ず銀粒だけをはる。咽部で反応良導点を数ヶ求めて

歯痛が、こめかみまで、ひびいているときは軽く刺針します。

後頸部のこりや肩のこりをとっておく必要があります。

これだけで少しは痛みは楽となります。

目の瞳孔の下、鼻翼の横を結んだ線の交った点付近に圧痛点があります。こゝに刺針しますと上歯痛に効きます。

F<sub>4</sub>41 (下関) 良導絡図の位置が誤りで耳前の顴骨弓の下で口を開けたりとじると動くところがありますこゝに口をあけて針を刺入しますと下歯痛に特効があります。

H<sub>6</sub>7 (温溜)

H<sub>6</sub> 大腸良導絡は上下の点に関係あり、上から下へ向けて刺入して雀啄してみます。

F<sub>4</sub>52 (厥陰俞) というところには歯痛の場合多くは圧痛があります。この周辺に何ヶ所か刺針しますと歯痛がとまります。

下歯痛の場合痛んでいる部位に直接皮膚の上から刺針をします。或は口をあけて歯横に刺針しますと良く効きます。歯槽から出血すると特に鎮痛します。

この様な遠いところでもF<sub>6</sub>良導点に反応点ができると歯痛に効きます。F<sub>6</sub>も歯に分布しています。

後は興奮点と抑制点背部6ヶ所、肩等であって特に治療点を選んだわけではない。2時間程して自宅へ帰るころには、普通に話ができる様になり電話をかけてきた例があります。恐らく声門浮腫と考えられます。この場合、F<sub>3</sub>(腎)の抑があって、これが咽に入っているので咽の反応良導点と共に、これが良く効いたのかも知れない。

#### ⑰ 後頭神経痛、後頸部のこり

これだけで充分の効果を受け難い場合には、2%塩酸プロカインと保命製薬のノイラン各2mlを混合して4mlとして、F<sub>4</sub>49より1/3の注射針を用いて軽く骨にあたるまで刺入して1ヶ所、0.3mlずつ特に圧痛点のある部位に注射をしますと、特効が得られます。注射をした後は、軽くもんでおくか、指で圧しておいた方が後で痛くない。又1ヶ所に0.3ml以上注射すると吸収が悪いのか、痛いことがあります。こっているところへ分注する方がよい。但し筋肉注射はあまり効果がない。骨と筋の間とか、筋と筋の間(即ち筋膜間)に注射をします。筋膜間に注射針があたりますと、突然抵抗がへったことが手に感じられます。この場合練習中は注射針の針尖の少し悪いものでは特に強く感じます。皮膚に刺入するときは、丁度万年筆を持つ様に注射筒をもって、右の中指の針の中程にまでそえてボンと瞬間に刺入しますと痛みがほとんど感じられません。うまくなりますと手の小指側が針よりわずか早く患者の皮膚にあたりますので更に無痛になります。静脈注射を行う様な形態で注射をしますと大変強い痛みを感じます。針の刺入を研究していますと、そうしたことが気になります。注射針でも電気針の針でも針尖が鋭い程無痛というわけではありません。電気針では松葉型といって松葉の葉の

F<sub>4</sub> 49、後より2 cm程  
刺入するか、やや下より  
鼻尖を向けて深く刺入す  
る。

このあたりより  
頭蓋骨の上  
をすべらせて  
刺針する。

後  
頸  
部

頸のつけねも  
よくこります。  
脊椎に近いと  
ころで硬結のあ  
る人が多い。

H<sub>1</sub> 4 ( 経 渠 )  
も後頸部のこ  
りに効きます。  
こゝに置針を  
しますとH<sub>1</sub>  
良導絡が鮮明  
に現われ上部  
で二つに分れ  
て、一つは後  
頸部にゆきま  
す。これを良  
導絡支絡とよ  
んでいます。

後頸部のこりを  
とったり腰痛を  
とるのに使用さ  
れます。

V M<sub>2</sub> ( 中 枢 ) は F<sub>4</sub> 良導絡  
の募穴で F<sub>4</sub> の異常に効き  
ます。

F<sub>5</sub> 30 ( 風 池 )  
は頸部の最も凹  
んだ部分の上部  
にあり快い圧  
痛のある部位で  
あります。こゝ  
よりやはり鼻尖  
に向けて刺入し  
ます。

様な先が最も無痛です。注射針では大体鋭い方が無痛で、先を電気焼した硬度のものが長く使用できます。

#### ⑱ 肩こり症

どこまで肩というかは別として、前の方で或は首のつけ根、真中、肩胛関節に近いところ背部に近いところと一応5ヶ所に分類できます。又肩のこりを起させる良導絡としては H<sub>6</sub> の興抑、次に H<sub>2</sub> の興(抑) H<sub>5</sub> 等がありますが、H<sub>5</sub> 17 肩井を刺激しますと肩のこりに効果がありますが、あまり肩のこりと H<sub>5</sub> との関聯は直接感じられない。左右1ヶ所づつ反応良導点を求めて効く様な簡単なものから10ヶ所づつ治療しても仲々効き難いものまでピンからキリまであります。直刺して効果の現われ難い場合、前より後に向けて水平刺を数本行って効くことが度々あります。これでも更に効果の弱いときは、前述のプロカイン、ノイランの混合注射を行いますと効いてきます。手の方に誘導刺激(肩のこりを起させた原因になったと思われる良導絡の肘関節より末梢部の反応良導点に刺激を与えることを誘導と名づけています)を与えますと効きます。

#### ⑲ 背のこり

背部は針を深く刺さない方が安全です。胸部も浅い方が安全で、肺を刺しますと気胸を起すことがあり、又強い刺激を与えますと逆に肋間神経痛を起すことがあります。この様な場合には局所麻酔剤で遮断しますが数日間仲々とまりません。背部はなるべく脊椎のすぐ両側を軽く刺激する様にしますが手指で背筋をなでてゆきますと丁度筋の凹みが丁度 F<sub>4</sub> 良導絡上に上から下に並んで存在することが簡単にわかります。この様な部位には勿論圧痛点があり治療点

となります。背部のとくによくこりつける人では、患者の両手を前で交叉させて、肩胛骨を左右に開けて、いつも肩胛骨の中において治療を行ったことのない部位に軽く浅く治療して特に効いたということもあります。

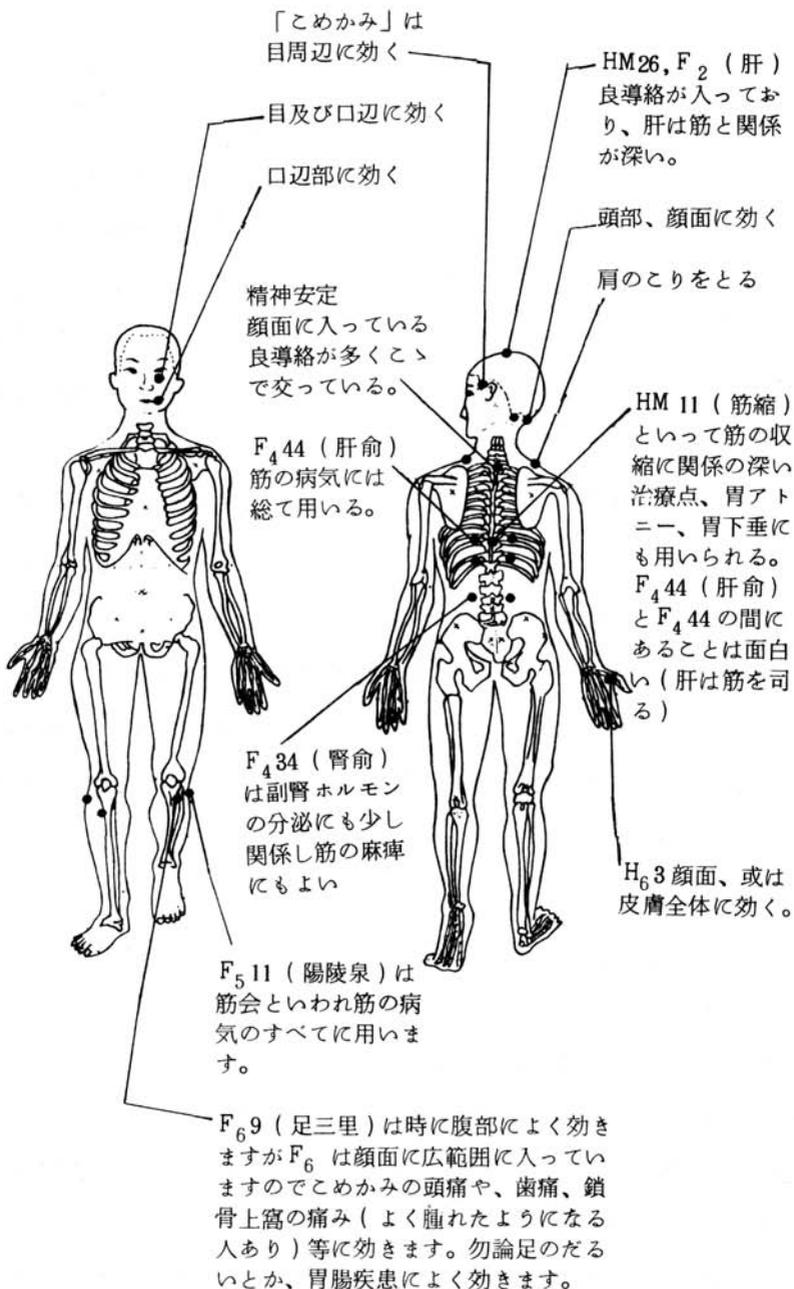
#### ⑳ 顔面神経麻痺

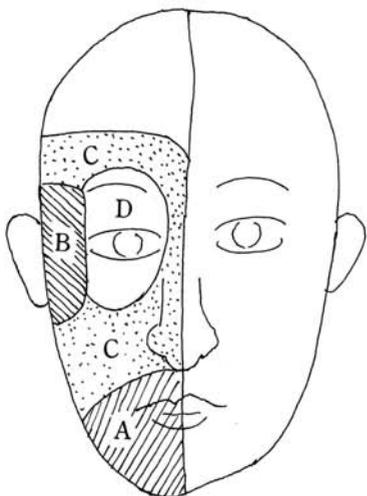
顔面神経麻痺の場合、20ミリATP 2ml注射を行ったり、ビタミンやヨクイニン湯或は起脾加求附湯等を内服させながら電気針を行いますと、約10回ぐらいで効果がでて20回ぐらいで治る人或は数ヶ月にも及ぶことがあります、全く効かないということは先づ稀しいと思います。

#### ㉑ 顔面痛と三叉神経痛

三叉神経痛は多くは電撃痛をともない痛み激しく食事できないということが多し。先述の顔面神経麻痺と同部位に電気針治療を行い、VB<sub>12</sub>の大量静脈注射が割合効いています。内服では、あまり効いた感じが致しません。最も強く痛む部位に前述の局所麻酔を行ったり、或はテトロドトキシンを、そのまゝ0.5ミリぐらいを2～3ヶ所に分注することもよい、1ml注射に入っていますが、いつも0.5ミリがよく、これ以上注射しますと口がしびれてきます。しかし局所注射をしますと局所麻酔が持続することが多く全身をまわってからも鎮痛作用があります。他のものと混合しますと局所麻酔の効果は減少します。

顔面痛の場合は、電撃痛がなく顔半分がジワジワと痛むとか、一部分が痛いことがあります。勿論痛むところに直接電気針を行いますと鎮痛しますが、良導絡の形態で痛みがとまるのでその実験をし





てみました。

H<sub>6</sub> 良導絡を刺激しますと A 部が鎮痛し、F<sub>5</sub> を刺激すると B が鎮痛、H<sub>5</sub> を刺激すると C が鎮痛、F<sub>2</sub> を刺激すると D 部が鎮痛しました。これは何回も繰返しましたが、その様に鎮痛しました。しかしこれは刺激を与える順序をかえすと、その形態は少し変化すると考えられま

す。この様に速くの良導絡を刺激しても、その良導絡の走行している形態で鎮痛した例であります。勿論、局所の近くを刺激した方が効果大きい、しかし肘膝関節より末梢部では近い方がよく鎮痛するというわけではなく、その患部と特に連絡の強い反応良導点が最もよく効くと考えられます。(同一良導絡上でも関聯性があり 1 例づつの実験しかありません)

## ② 顔面神経痙攣

これは全良導絡の調整をしたり、痙攣部に反応良導点を求めて治療しても仲々効果のみえない難物です。痛みが最もとまり易く次に麻痺、最も治り難いのが痙攣であります、書痙にしてもパーキンソン氏病にしても同様であります、軽いものは良くなります、大阪医大兵頭正義教授は顔面神経の頭蓋より出る部位に注射針を用いて刺入すればアルコール麻醉程は効かないが効果があるといっておられます。私も追試してみました、軽いものでは可成の効果を認めて

います。注射針を用いる方法は数年前東京で特別講習会を行った際詳しく発表致しましたが普通の針と異った効果があります。それは恐らく針の中に穴があいており、沢山の細胞を破壊し、従って負傷電流が多く流れるからではないかと考えています。肩のこり等その他の疾患でも私は $\frac{1}{3}$ の注射針（注射液をいれない）をよく愛用して効果をあげています。顔面神経の出る部位は耳の穴の後完骨の前、頸状突起の根本にあります。下から上を向けて刺入します。うまくその近辺にあたりますと刺入している間だけでも痙攣がとまっています。注射針を置針しておくといよいと思います。この治療法を繰返します。

#### ㊸ バセドウ氏病

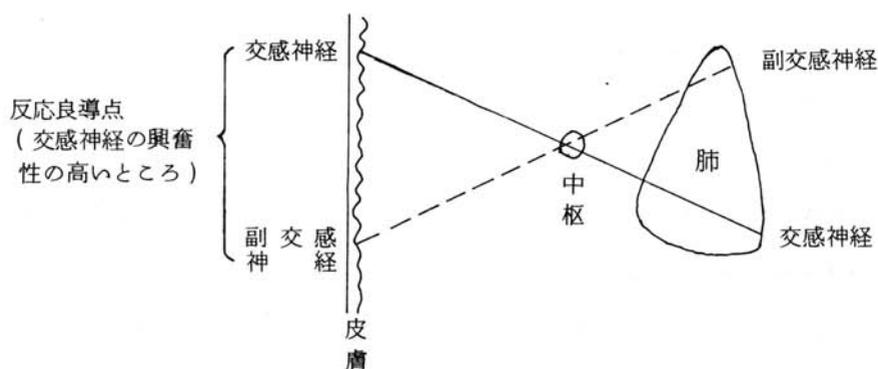
VM22（廉泉）を中心に、その周辺に数ヶ所反応良導点を求めて電気針を行います。あまり深く刺入する必要はなく0.5～1mm程度であります。気管を刺しますと咳喇がでます。この治療と全良導絡調整療法を併用しますと約10回程の治療で、甲状腺のはれ方が約半分ぐらいになることが多くその後の治療には可成りの日数がかかりますが、半分減少しますと症状は軽くなります。

#### ㊹ 気管支喘息

気管支に分布する副交感神経の異常緊張によって起るとされています。副交感神経の抑制剤が最も効果があるべきであります。実際には交感神経の興奮剤、塩酸エピレナミンの様なものが使用され一時的に効果をあげています。薬物では今の処、根本的療法はなく、薬物を理学療法的に用いているアストレメジン療法が根治的に働いています。これは私達の理論から云いますと灸の代用と変えられ、

用い方によっては灸より効く場合があります。

日大の寺田文次郎元教授（薬理）は自分の喘息を治すため苦勞され、ついに背部に針を数十本置針してもらって治ったのであります。この効果究明の説明として多くの細胞が破壊され、そのために細胞内のグロブリンの様なものが遊離して、これが副交感神経抑制に働いたのではないかと説明しています。単にこれだけであれば背部を治療する必要はなくなりますので、この治効理論は、神経面と液性面の二つに分けて研究してゆくべきであると思います。私達は主として神経面の研究を進めていることとなります。



喘息の場合の皮膚と肺部の自律神経、興奮性の模型図を書いてみます。いつもこの様になっているとは思えませんが誠にうまく説明できます。皮膚と内臓との間が、この様な完全な拮抗関係にあるとは考えられません。左右良導絡と同様な不完全拮抗関係を考えています。

肺部では副交感神経の興奮性が優勢であり、皮膚体表では交感神経が優勢であります。この特に強調された部位が反応良導点ということになります。この反応良導点に電

気針を行いますと交感神経の興奮性を抑制し、肺部では、その逆となります。灸やアストレメヂンを行いますと皮膚部の副交感神経の興奮性を高め、肺部では、その逆となります。この様に考えてゆきますと、電気針と灸を同時に行いますと、特にハサミで切るのと同じ様に二つの力が重なりますと特に強い治病効果が現られると考えられます。内臓に副交感神経の異常興奮がある時は、この様に二種の刺激を加えることによって、効果をあげうると考えています。

肺と特に関係の深い反応良導点は銀粒をはって3壮施灸し、その上に電気針を行うとよい（私は灸は自宅でもらっています）。

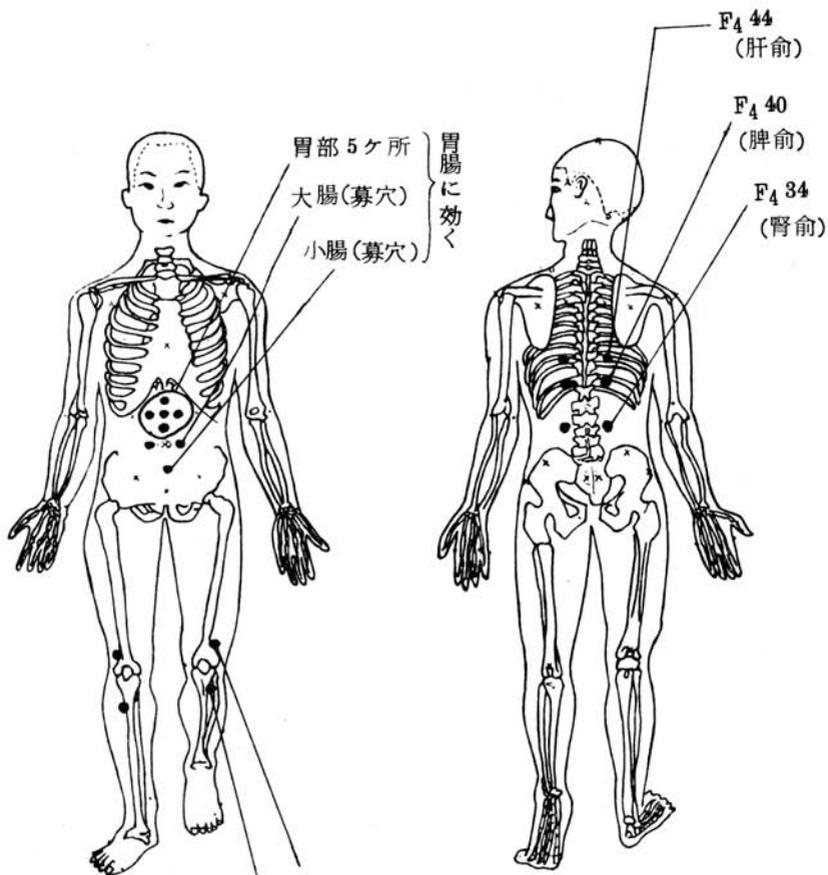
#### ㊸ 慢性胃炎、(胃痛)

胃腸を強めたりする治療には次図の如き点を用います。病名に関係せずに効きます。

慢性胃炎の場合でも、それによって起った胃けいれんであっても胃潰瘍、胃酸過多症或は逆の無酸症であっても同じ治療点であります。胃下垂の場合には、この治療点に HM26 (百会) や HM11 (筋縮) を加えます。又、薬では小柴胡湯 (胸脇苦満とか、胃がつかえる患者に良く効く) を与えながら蛋白同化ホルモンの注射をしますと早く肥えて良くなります。この肥えてくる際に胃の滑平筋も発育すると考えられます。勿論消化剤も加えています。どうもこの蛋白同化ホルモンは女性の方が良く効くといえます。デボは大体1本注射して約1kg ぐらい肥えています。

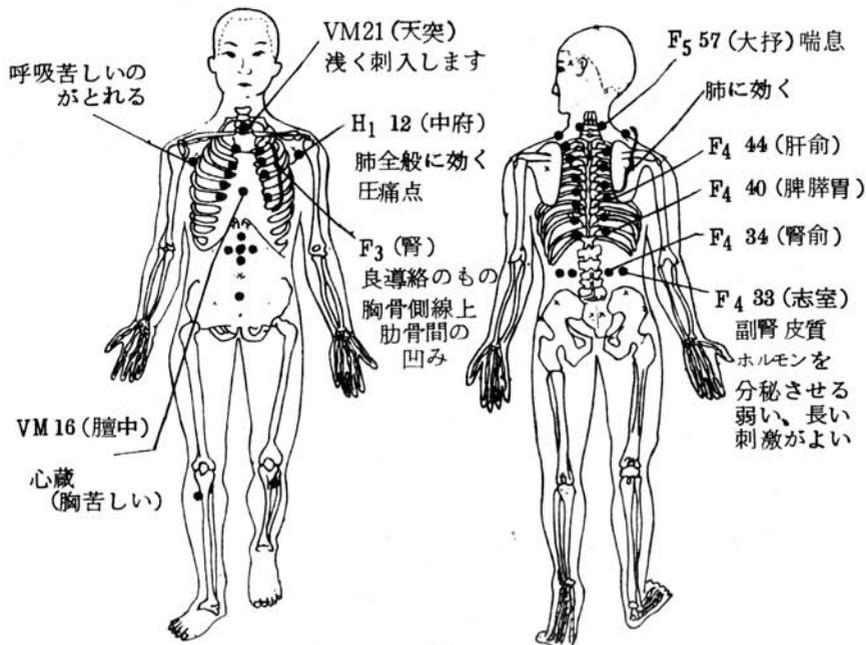
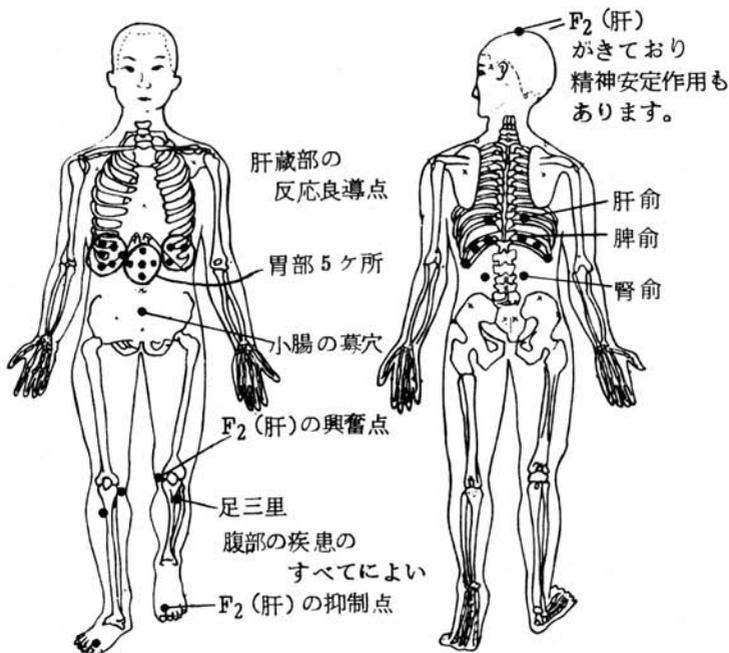
#### ㊸ 肝 臓 炎

肝臓が二～三横指はれている患者にも良く効きます。カタル性黄疸を起している場合でも、同様の治療を行います。肋間は浅く斜め



梁丘 (F<sub>6</sub> 12)  
 軽い胃痛、腹痛はこれだけ  
 けで止る。下痢にも良。

足三里 (F<sub>6</sub> 9)  
 胃酸がでるので 20 才以  
 下は一般に用いず。  
 30 才以上は全員用いる。  
 胃酸過多症には用いない。



に刺し、決して肺にあたらない様に要心をしながら刺入する必要があります。F<sub>2</sub>の興か抑によって興奮点を選ぶか抑制点を選びます。

## ㉗ 便秘

腸に分布する交感神経興奮は腸の蠕動のブレーキであり、ブレーキのかゝりすぎによる便秘はけいれん性便秘であり、副交感神経の働きが弱りますと常習性便秘になります。勿論、両方に作用する治療法がよい。

痙攣性便秘は、どこで痙攣がおこるか、わからないので腹部全般に反応良導点を求めます。大腸だけでも、ウォーカー博士によって各内臓と大腸の痙攣部位が知られていますが、このようなことを考えてゆきますと、全良導絡を調整しながら、腹部や腰仙部で反応良導点を求める必要があります。F<sub>1</sub>14は腹結とよばれ、この部位だけ治療しても効果があり、仙骨孔のF<sub>4</sub>23(次髎)を刺激しても骨盤腔内の臓器器管全般に効果があります。乳児では蜂蜜を少量与えるだけで効果があります。

古人は総ての病気は腹に根ざすといっております。腹部を治療することは総ての疾患を根本的に治すことだと思います。

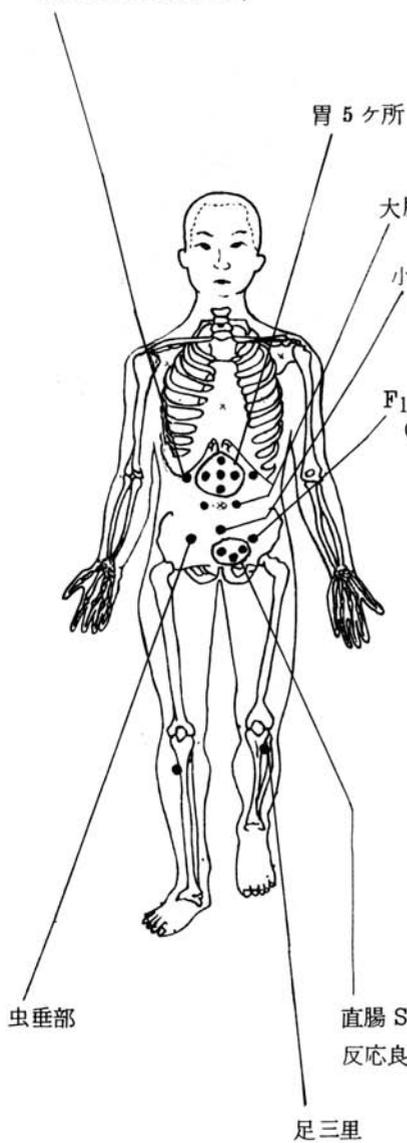
腹部の治療点は主として五臓六腑の募穴を利用すればよい。

## ㉘ 糖尿病

糖尿病の場合、口がいやしいというわけではあるまいが口の上下に刺針し、VM<sub>11</sub>中腕は腹膜を軽くつきぬき腹膜を刺激します。良導絡では脾、胃脘が同じ神経断区らしく、三つ同じ部位に反応を起すようです。これを分ける部位を研究する必要があります。そうすれば診断の面に於ても役立ちます。良導絡測定でF<sub>3</sub>の抑の場合に

F5 22 (章門)

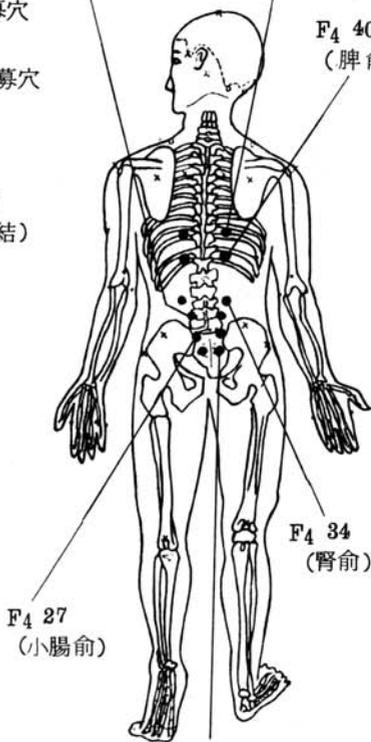
上行と横行結胸の角



F4 31 (大腸俞)

F4 44 (肝俞)

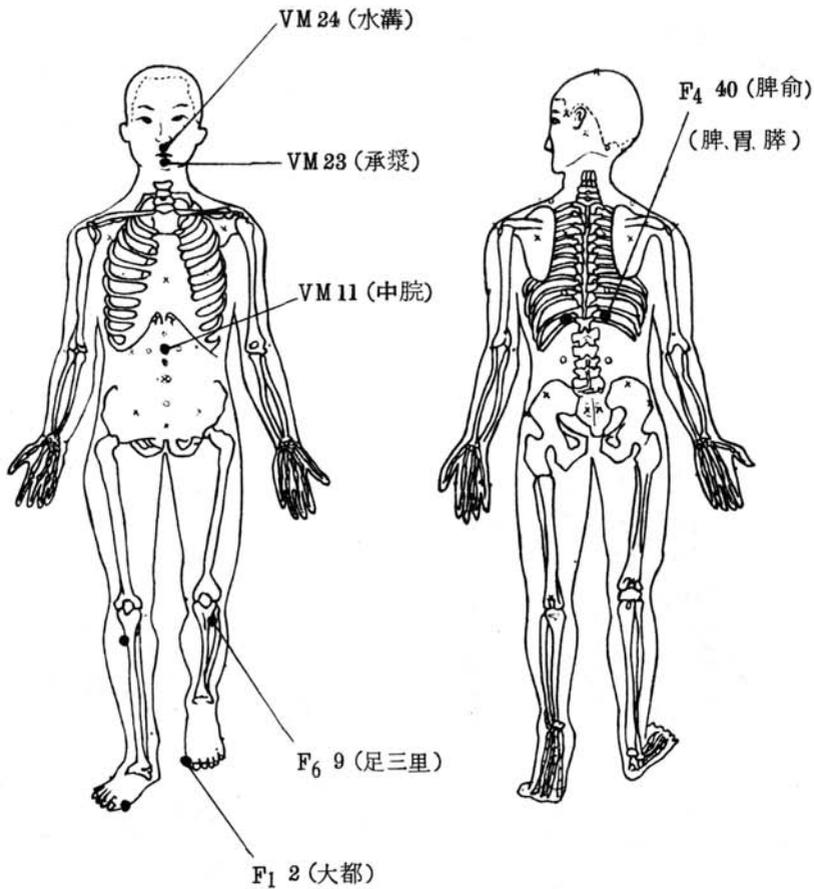
F4 40 (脾俞)



F4 23 (次髎)

骨盤腔内の疾患に効く

ここは下から斜上を向けて、仙骨孔に入れるつもりで刺入



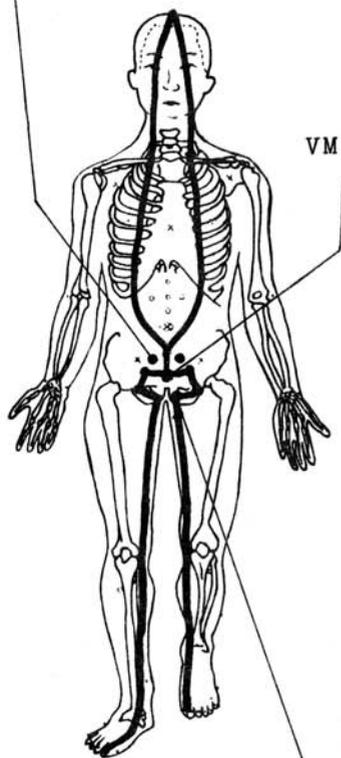
は八味丸を投与します。しかし八味丸は人によって胃には、あまり良くないので健胃酸も与えています。

㊸ 月経困難或は不順

メンスの異常は F<sub>2</sub> (肝) の良導絡と関係が深く、F<sub>2</sub> 良導絡の調整と F<sub>2</sub> 上の子宮卵巣等と関係の深い治療点を選びます。

F<sub>3</sub> 14 (気穴)

女性ホルモン分泌点



VM1 (曲骨)

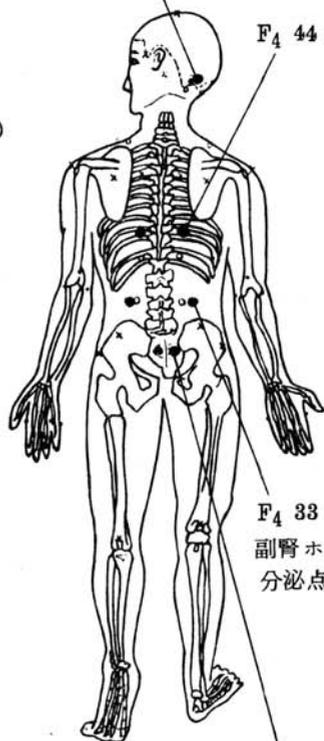
大陰脣及びその外側  
子宮、腔、陰核等も  
皆F<sub>2</sub>良導絡に関係が  
深い

大陰脣を刺激すると  
目が楽となり、背腰  
部のこりつける感じ  
がとれる

HM 22 (風府)

脳下垂体ホルモンが  
分泌される

F<sub>4</sub> 44 (肝俞)



F<sub>4</sub> 33 (志室)  
副腎ホルモン  
分泌点

F<sub>4</sub> 23 (次髎)

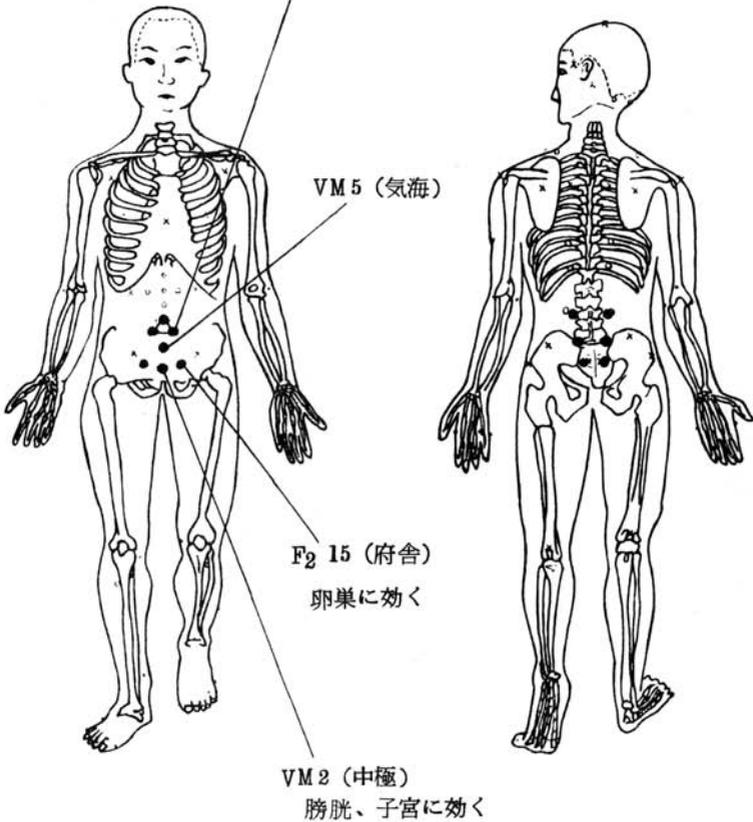
### ⑩ 不 妊 症

不妊症には大別して男側と女側に分けなければなりません。もし女子側に原因があるとしても排卵や卵管、子宮その他に原因が分れて、婦人科に於て可成詳しく原因を究明する必要があります。体温表によって大体を知ることができますので一応特別の原因が認められなくて不妊の場合、人工授精が最も確率が高いわけですから、専門医の治療を受けるべきですが、一応不妊症の治療点を紹介しておきます。1年内で効果のあった例が度々あります。

### ⑪ インポテンツ

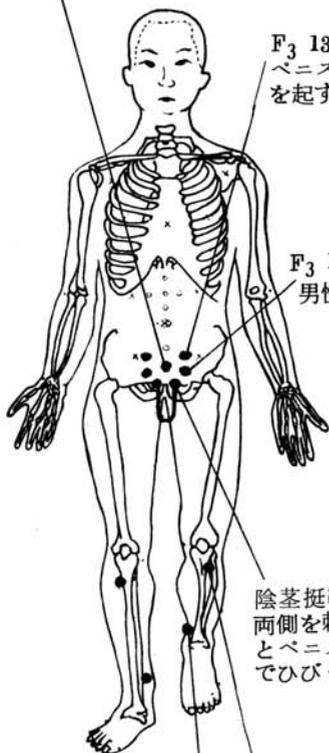
精力減退によるもので精力とは字の如く米と青いものの力即ち食物のエネルギーということであって、その食物のエネルギーが充分働いておれば精力減退は起らないということになります。その為には先づ健康、この健康をそこねるすべてのものは精力を減退させます。即ち熟睡のできない時睡眠不足、肉体の疲労（過労）、精神の疲労、精神疲労は肉体疲労よりとれ難い。先づ副腎皮質の分泌を正常ならしめることであります。性ホルモンが多量に分泌される、睾丸より男性ホルモンが分泌されますがこれは  $F_2$  良導絡が支配している様でありますので  $F_2$ （肝）、 $F_3$ （腎）、肝腎を調整します。体調を整えて先づ自分の男性ホルモン分泌を促す、他から与えたものとは全く意味が異なります。ドイツでは羊の人工受精を行うのに羊の射精中枢近くの脊髓部に細い針を刺入し通電して射精せしめて精液をとるといような文献を読んだことがあります。最近この様な応用もできています。我々は脊髓まで直接刺激しないで、その近くまで刺激して、弱った勃起中枢の興奮性を高めることによってインポテ

A 点は、その患者の  
口の横の長さを求め  
て正三角形を求めた



ンツを治すことができます。この問題は可成大きく精神が関与しますので自信をもって治療して患者を全く信頼させなければなりません。食べ物や詳しくは良導絡自律神経調整療法百話を参照して下さい。

F<sub>2</sub> 16 (曲骨)  
睾丸に効く



F<sub>3</sub> 13 (大赫)  
ペニスが充血  
を起す

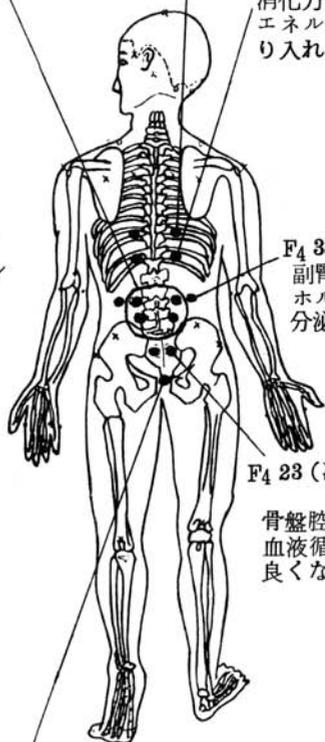
F<sub>3</sub> 12 (横骨)  
男性ホルモン  
分泌

陰茎挺靱帯の  
両側を刺激すると  
ペニスの先まで  
ひびく

F<sub>6</sub> 9 (足三里)  
腹力を作る

F<sub>3</sub> 7 (復治) 副腎  
ホルモンの分泌を促す

F<sub>4</sub> 44 (肝俞) 肝機能を  
高め性ホルモンの合成  
や睾丸にも効く



F<sub>4</sub> 40 (脾俞)  
消化力によって  
エネルギーをと  
り入れる

F<sub>4</sub> 33 (志室)  
副腎皮質  
ホルモン  
分泌される

F<sub>4</sub> 23 (次髎)  
骨盤腔内の  
血液循環が  
良くなる

HM 1 (長強)  
勃起力が強くなる

勃起中枢と  
関係が深い

## ㊦ 膀胱炎

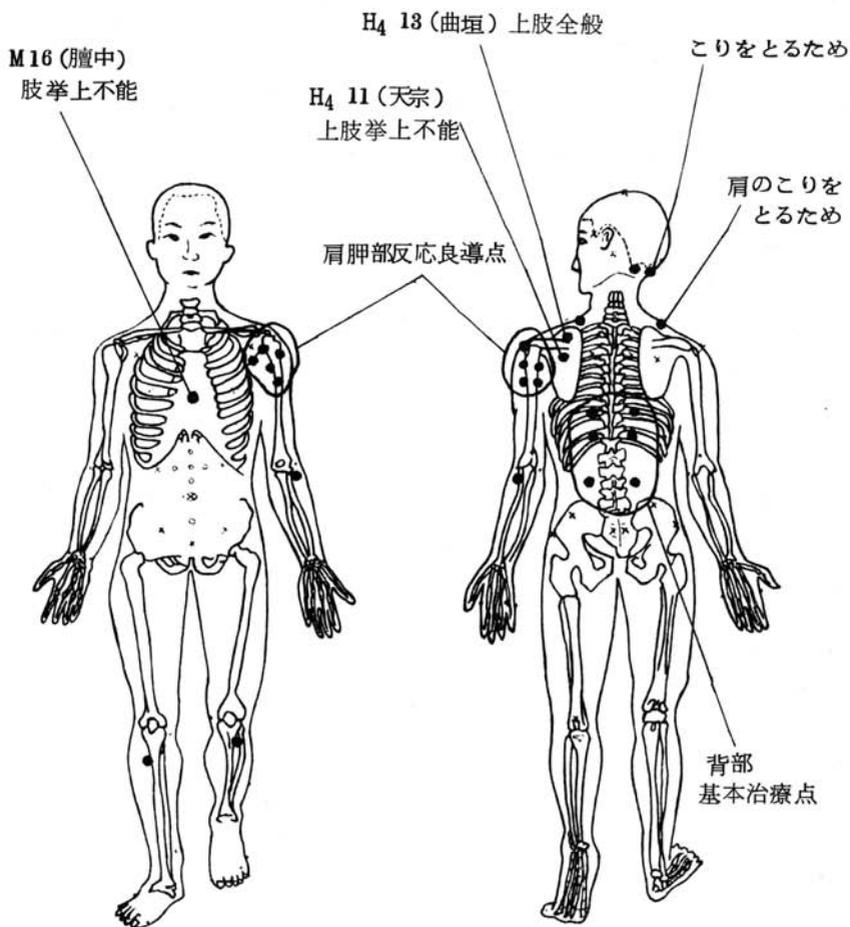
膀胱部前面に数ヶ所、反応良導点を求めます。これはVM2（中樞）が中心となります。F<sub>4</sub>26（膀胱俞）やF<sub>4</sub>23（次髎）等もよい。膀胱に刺激する場合は膀胱腔に簡単に刺入されています。残尿感や痛み等にも効果があります。漢方薬は猪苓湯がよい。

## ○ 五十肩

上肢の挙上不能或は後へまわせない等の症状を訴える者、この中で痛みのあるのが普通ですが痛みが無く或は少く、運動障碍の強い者は筋の萎縮を、ともなっていますので治療日数がかかります。

痛みの強い者では、助手に手をもたせて患者の痛い状態にまで上に或は後へまわして、痛い状態で反応点を求めるなり、圧痛点或は自覚痛の部位に電気針を行います。それによって前より運動範囲が広がりますと、それを又痛い状態にして治療しますと速く治ります。サロンパス等を貼った部位では、特に電気が通り易いので、その通り易い中で又特に通り易い反応良導点を求めます。肩胛関節周囲で特に筋が緊張していたり針を刺入して硬いところに重点をおいて雀啄通電を行います。

この場合7～10秒等にこだわることなく30秒でも1分でも雀啄刺激を行います。場合によっては $\frac{1}{3}$ 注射針を用いて刺激すると効果があがります。プロカイン・VB<sub>1</sub>（ノイラン）等を混合して1ヶ所に0.3 ml程づつ注射してゆくのもよいが関節部では注射を打った後で痛みを訴える患者さんが多いので、注射をする場合には筋の抵抗の急におちた深さとか、何か神経の様な硬いものに当たった感じをうけた部位に0.1 ml程注射することはよい。



#### ③ 腰痛

単なる捻坐等による或は筋に負担をかけた為に起る筋肉痛の様な簡単なものから椎間板ヘルニアや疝り症や変形性脊椎症や或は腹腔内の内臓よりの反射によるもの等種々の原因によって起るわけです

が治療は同じであります。唯病名（病状）によって治癒日数が異なるだけであります。患者を下に向けて寝させて痛みを訴える範囲を開き、その範囲内に反応良導点を求めて電気針をなるべく深く刺入します。この際切皮を痛くなく刺入し、トントンと電気針をたゞきながら目的の深さまで刺入します。臀部等では急に針を全部一気に刺入しますと筋が収縮を起して針がまがってしまうことがあります。そして、この痛みをとるためにF<sub>4</sub>14（委中）に誘導刺激を与えます。下腹部のVM2（中極）も効くことがあります。これで充分とまらないときは注射をしたりカテラン針の様な長い注射針を用いて特に痛い部位だけに刺針しても良く効きます。

今度は起きさせて前後屈や、左右に腰をねじてみて痛みがないかをたしかめ、痛ければ痛い状態にして電気針を行います。1回で可成鎮痛するはずであります。変形性脊椎症による腰痛であっても10～30日もかけますと多くの場合鎮痛します。従って変形は腰痛の直接原因ではなく誘因になったり、又痛みを強くする様な因子となるのではないかと考えています。

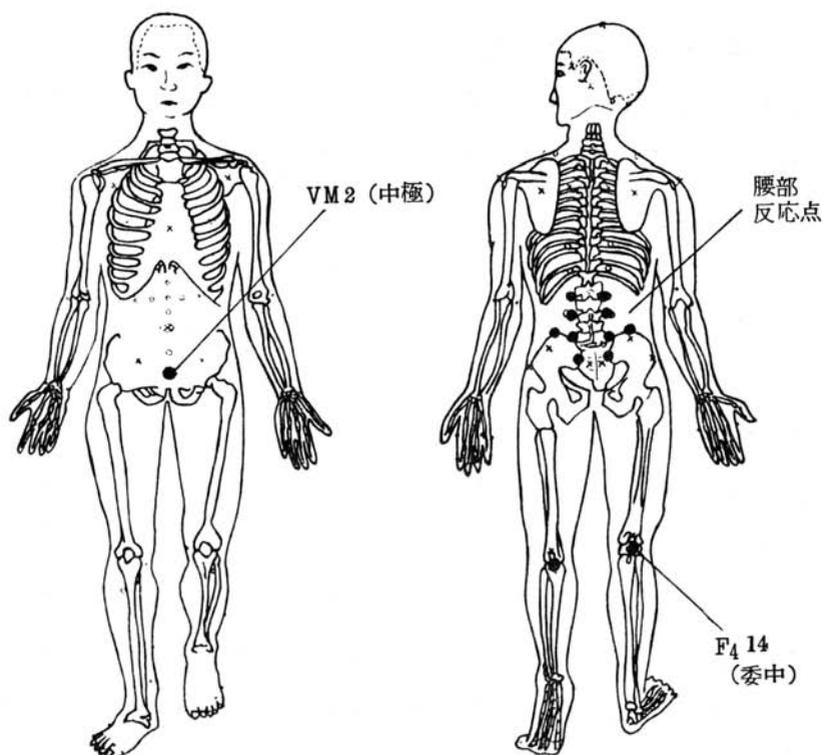
### ㊦ 坐骨神経痛

坐骨神経痛も前述の腰痛と同じく原因に種々あり大体腰痛と同じ様な治療法を行います。痛む範囲が足先にまでのび、一般に腰痛より長期の治療が必要なことが多い。

腰痛と同じく腰部に反応良導点を求めます、坐骨神経が腰椎から出ているからです。腸骨部へ仙骨孔の高さで臀部の側面に圧痛の強い部位があります。これが腸骨部には経穴名も良導点名もついていませんが、F<sub>4</sub>27の外側部ですのでF<sub>4</sub>27としておきます。

それにもう一つはF<sub>5</sub>15（環跳）です。

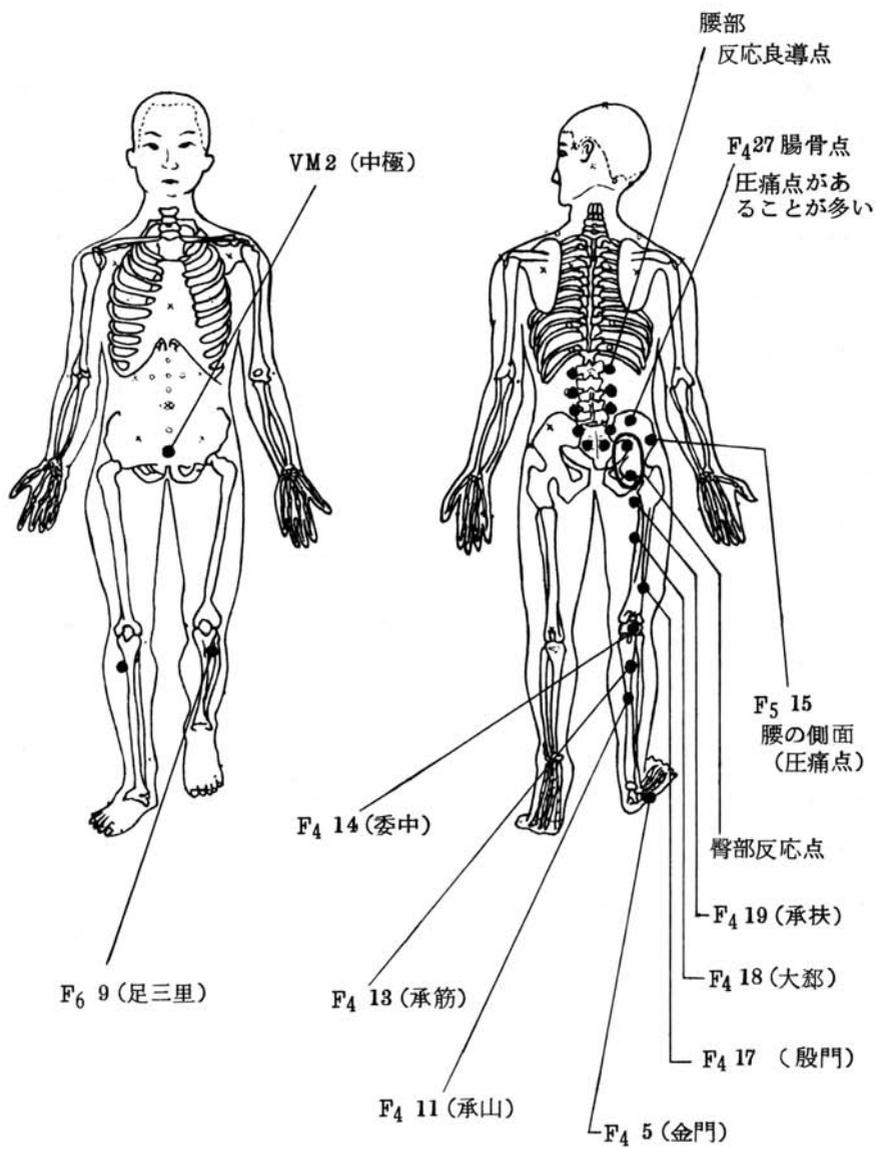
臀部にも良導点名のないものが沢山にあります。F<sub>4</sub>29（胞育）やF<sub>4</sub>28（秩辺）の外側になります。こゝらは可成深く刺入しないと効果が弱く、又女性等では特に臀部が軟かく針で雀啄しても豆腐をついている様な感じのすることがあります。この様な場合には左手で臀部を圧迫して、示指と中指の間に昭和針管（自律神経調整針）を刺入しますと、針が強くしめつけられて効果が大きくなります。軟かい部位ではすべてこの様な圧迫を加えますと良く効く様になり



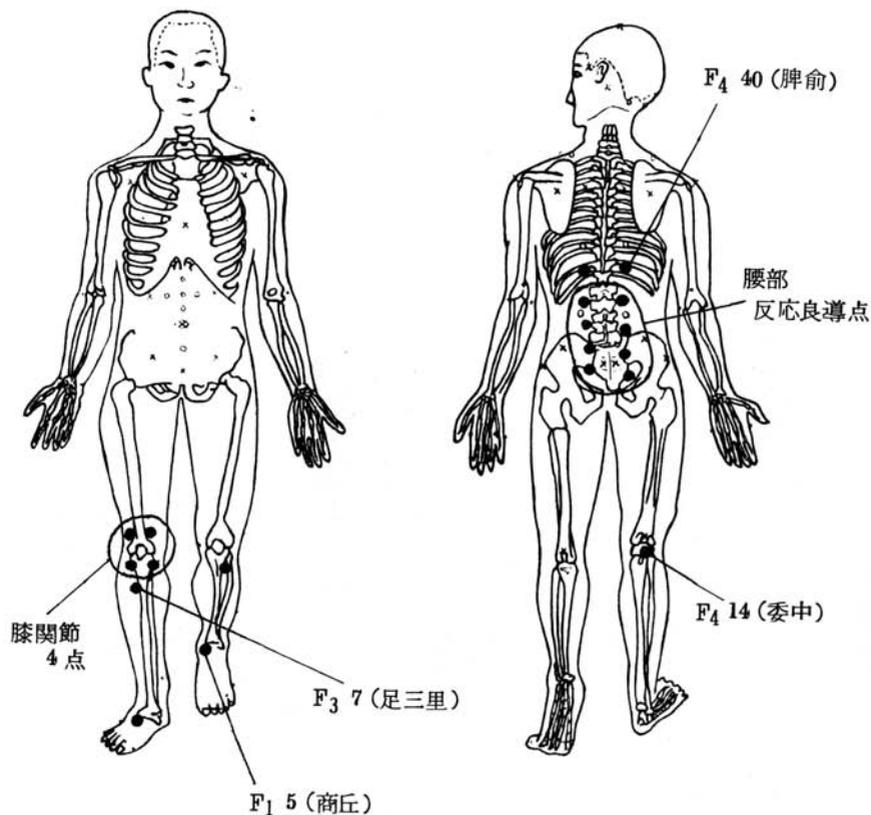
ます。F<sub>4</sub>19は臀部と足の境であって臀部の丸い線上にあります。F<sub>4</sub>18、F<sub>4</sub>17、F<sub>4</sub>14、F<sub>4</sub>13、F<sub>4</sub>11等を刺激し、F<sub>4</sub>5（金門）は足の外踝よりやや前方で骨のないところです。これを刺激して坐骨痛の楽になることが度々ありますので良く使用します。それに下腹部のVM2（中極）に刺針しますと坐骨部に響くこともありVM2はF<sub>4</sub>（膀胱経）の募穴であり、坐骨神経の走行がF<sub>4</sub>良導絡と良く似た走行を示していますので坐骨神経痛はF<sub>4</sub>良導絡の異常によって起ると考えられます。F<sub>6</sub>9特に治療に加えねばならないことはありませんが、足の疾患や腹部の疾患等、多くの疾患に用いて補助的な効果がありますので用いています。

### ㊦ 膝関節炎

膝関節の膝蓋骨の周辺4ヶ所に治療点を求めます。下の2ヶ所はやや上を向けて針を刺入しますと関節腔内に針が入ります。これによって特に効果が大きくなり上の2ヶ所は普通に電気針を行います。後からF<sub>4</sub>14も治療しておきます。F<sub>3</sub>7は両方に行います。膝関節4ヶ所の治療点は患側だけでも良いが実際には健側も治療しておく方が効果もやや大きくなります。膝関節炎のほとんどはF<sub>1</sub>良導絡の異常であることが多く、F<sub>1</sub>の興の場合にはF<sub>1</sub>5に注射針 $\frac{1}{2}$ を用いて刺激を加えますと関節痛のとれることが多い。又胃や腹がはったり腹がひきつる様な患者にF<sub>1</sub>5だけを刺激して特効を示すことが多い。これも刺入した針の皮膚上から指で軽くおさえると効果が大きくなります。背部F<sub>4</sub>40は脾俞と呼ばれF<sub>1</sub>と関係が特に深いので背部F<sub>4</sub>40を加え足の疾患の多くは腰から分布する神経と関係が深いので腰部の反応良導点に電気針を加えます。



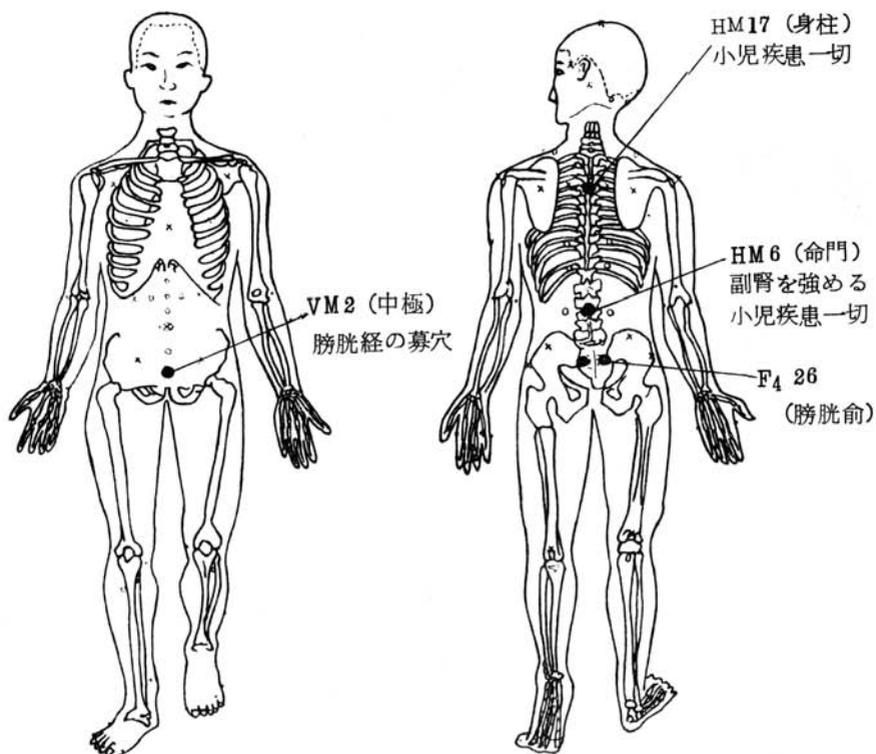
勿論膝関節部だけの治療だけでも可成の効果があります。



### ㊦ 夜尿症

多くの場合小児幼児のことが多いので、ほとんどの例において電気針を用いず銀粒をはるだけで効果がでています。HM 17、HM 6、F4 26、VM 2に銀粒を貼るだけで、治療日より夜尿がなくなる例

が多く、10日間して効果がなければ電気針を行います。この場合には、HM 26（百会）を加えるとよいでしょう。銀粒は毛のあるところでは貼っても、はねかえってきて効果がありません。



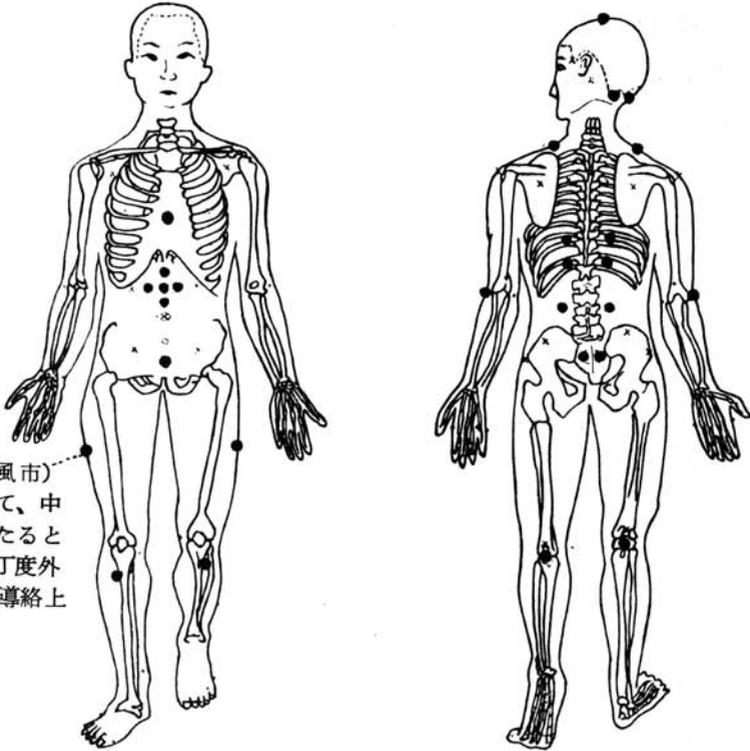
### ㊸ 捻 坐

捻坐や打撲等は、その患部に出来るだけ沢山の反応良導点を求めて電気針行えば効果があります、どうしても捻坐による痛みがとれない場合には注射針を用いるか、或は患部から吸玉で泻血をすると良く効きます。

㊹ 知覚神経麻痺や運動神経の麻痺等は、その異常のある範囲内に反応良導点を求めて、深く置針したり、軽く雀啄をくりかえしてきますと効果が出てきます。どこの部位にその様な麻痺が起ってくるか、わかりませんので治療点を詳しくは述べませんが痛みと同じく、重要治療点を使用すれば良いのであって病名よりむしろ、悪い部位が問題となります。患部という部位と、治療点という部位と、部位と部位との関係が重視されます。結局的には適刺激を用いた場合には自律神経の恒常性によって自ら調整されて病気が治ってくるということであります。

### ㊺ 高 血 圧 症

本態性の高血圧は、高血圧症の中で9割を示しています。遺伝的であり、外因には煙草やアルコール等の長期連用や食生活に於ける肉や米のとりすぎや食塩の過剰摂取、ヨード不足等があげられていますが、精神的ストレスも大きな影響を与えていると考えられます。入院や温泉療法等も精神的ストレスから解消されるので効果が大きくなると思っています。それは温泉を持っている人が自分の家で温泉に入っても、入浴客の様には効果がないのではないのでしょうか。私見では、全身的な血管壁に対する交感神経の緊張症ではないかと考えています。従って全体の交感神経の緊張をとってやることで血圧を下降させることになるのではないかと考えています。それで重



F5 14 (風市)  
 直立して、中  
 指のあたると  
 ころ、丁度外  
 側F5良導絡上

重要治療点  
 その一  
 高血圧症に用います

要治療点を全体に治療しますと、血圧がさがってきますし、特にこゝを刺激すれば治療直後に10～20ミリぐらい血圧が下降するという治療点もあります。



耳穴の入口に、副腎と脳下垂体分泌点という部位があります。この周辺で測定導子の小さい2ミリ程の電極を用いて探索して、反応良導点を求めて、ここに3～5ミリ程刺入し、約10分間程置針或は電気針を30秒間程刺激しますと、治療直後に効果を示すことが多く、前述の如く、10～30ミリぐらいまで血圧下降を示すことがあります。高

い時程効果があり、正常血圧ではほとんど影響がありません。又、左右の耳で特に反応の現われ易い側片側を治療するだけで効果があります。血圧の低い場合は、高血圧と同じ様な治療をして、心臓に効く治療を加えます。

以上は多忙な開業医の先生を対象として、出来るだけ簡易に臨床に利用していただくことを目的に書いたもので、良導絡自律神経調整療法を読んでいただけると本当の良導絡治療が理解していただけると信じています。

治療と云えば薬物、この時代から理学療法が加わらなければ本当の治療とは云えないという時代が、必ずやってくると確信しております。

是非読んでいただきたい書籍

- ◎ 良導絡自律神経調整療法  
660頁 15,000円 (送料別 350~700円)
- ◎ 最新良導絡臨床の実際  
3,300円
- ◎ 良導絡臨床入門  
66頁 1,200円
- ◎ 良導絡図カラー  
1,200円
- ◎ 良導絡掛図  
(カラー3枚一組) 3,300円

良導絡研究所事業本部

〒562 箕面市粟生外院7-172

初版 1972年3月6日 出版  
2版 1978年8月5日 発行  
3版 1984年9月24日 発行

良導絡臨床入門

著者 医学博士 中谷義雄

発行所 箕面市粟生外院7-172 ☎0727-29-3045

良導絡事業本部 中谷芙莎子

印刷所 ライオン印刷株式会社

